無産階級戰鬪雜誌

進め 一部十錢
第二年第九號大正十三年九月一日發行
大正十一年一月三十日第三種郵便物認可

進め

第二年 第九號 九月

本號一瞥

震災回顧……岩澤 岩
××に果てた南葛の同志を憶ふ……相馬一郎
自警團……牧野一郎
地震の思ひ出……田代常二
社會主義に對する誤解批難退治……石川準十郎
農民組合の必要……湯原康三
全土戰報（支局通信）……
貴院改革問題と第三憲政擁護運動……久保芳朗
二つの事實に直面して……大路龍一郎
「排米講演」を聽きて……李平權
旱魃に當面して……岡本一郎
無産階級の娘……小川未明
高野山虐殺……岡陽之助

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

社告

全國の「進め」支局の連絡を圖りたい

（1）

『進め』もよい加減大きなものになりました。先づ大体、日本全國に行き渡つたものと見て差つかへないものと思ひます。それに作つて支局が増て來たことも力強いものの一つです。殊に、各縣の支局が大いにその地方獨特の運動を起して居る事は限りなき痛快事であります。所で、もう此の邊で、全國に散在する支局がそろ〳〵連絡を取つて、無形の手を互ひに固く握り合ふべき秋ではないでせうか

（2）

『進め』は、その標語の通り『無產階級戰鬪雜誌』であります。深遠な學理の檢討には少々似つかはしからぬズータイの雜誌であります。さういふ方面は他に二三、非常によい雜誌があることですから、そつちで主にやつて頂くことにして『進め』は、どこまでも、街頭の戰鬪兒であるべきだと信じます。それが『進め』の柄相應だと信じます。それから、今一つの特長は、本誌が何の團体にも屬して居らぬことで、何の團体何の運動と定まつたものの機關誌でないことであります。況んや、何々閥と申して、相札を有たぬと、どうも打ち融け難いなどといふ七面倒なグループの提灯雜誌とも違ひます。

（3）

何だか、妙な自己廣告になつて行くようですが、今一つの特長は、有名、無名老人、青年、先輩、後輩等といふベラ棒な區別が無いことです。曾てはそんなものが行つたようなキラヒ無きにしもあらずでしたが、目下も、今後も無い、若しくは無からしむるつもりです。

（4）

ですから、何卒『進め』を買ひ破つて下さらぬように。そして自分の雜誌のつもりで見て下さるように願いたいもんです。從つて、投稿は頗る自由であるは申す迄もない事です。意見を滿天下に訴へたくなつたら『進め』を利用する事です進め社では、さういふ青年が大好きであります。無名なら、無名であるほど歡迎します何故かといふと、無名青年が立派なものを書く事、その北が既に一つの、有名無能の『名士』への吊鐘だからです。

殊に地方の同志よ。決して、『名士』なんぞを恐れないで下さい。訪ねて行つてイヤに見識振つたり、乙に澄ましたりしたら、高くカラ〳〵と笑つておやんなさい

（5）

さてまた投稿のことへ話を續けます……。投稿は自由です。けれども、第一誌面に限りのある事ですから、止むを得ず撰擇が必要になつて參ります。その撰擇は、『進め』編輯人に一任させて下さることを望みます。但し、撰擇は、善惡良否に標準を置くのぢやありません。その月の編輯方針が唯一の標準なのです。だから、いくら立派なものでも、次へ次へと廻されたりもするもんです。

（6）

相談は今一つ前に逆もどりさせて、ここに全國の支局の結束をやつてみたいと思ひます。全國のプロレタリヤの大結成こそ僕達の望む所だが、急にといふワケにも行くまいから、先づ進め社では、支局だけ、試みに完全に、結束を始めてみませう。結束とは結局連絡です。絶わず、連絡がうまく取れて居れば、それが即ち固い結束です。そして結束は力です。つまり『進め』が本當に力を有つことです言葉を換へて言ふと、『進め』が全國を舞臺に名實共の無產階級戰鬪雜誌として立ち現れることであります。そして『進め』をその結束された力の連絡機關としたいと思ふのであります。

支局の諸君は勿論右の提案に御賛成のことと信じます。若し別に異議がなければ、會員章(?)といつた風のもの(言は、進めメダル)を作つて實費で分けることにしたいと思ひます。メダルの事は、改めてお報告申し上げませう。なるべく安く、て美しい奴を作り上げる意氣組みです。

日本フエビアン協會

第一回公開大講演會

日時―九月廿七日（土曜日）午後六時ヨリ

場所―東京芝公園協調會館大講堂

講師及び演題

△安部磯雄―英國フエビアン協會の政治史的考察

△川原次吉郎―未定

△神近市子―藝術の革命

△藤森成吉―未定

△秋田雨雀―文藝家と行動

△今野賢三―藝術の社會化

△宮島新三郎―社會と藝術家

△木村毅―藝術と娼妓酌婦

會費―三十錢

但會員及會友は無料

右日本フエビアン協會の主張を闡明せんがため開催す。

東京市新櫻田町十九

日本フエビアン協會

進め

第二年 第九號

正しい思想を有つ者の前には常に絞首臺が立つてゐる。
されど、正しく且つ勇敢な先驅者は平氣でそれを目がけて進む。
民衆の行軍は、これによつてのみ熱と力とを増し加へらるる。

震災回顧

○世は陰慘の九月である。

正しく一年前の今月今日、關東を見舞つたる大震災の記憶が、今ぞ、日本國民の胸に、新しく蘇へることゝ信ずる。而して、帝都の文化の一朝にして灰燼せる陰暗の夢を、こゝに、靜かに回顧しつゝ、誰しも、心、痛まぬはないであらう。

○我等も、また、秋風の下、トタン葺のバラック街の一隅に佇みて、むごたらしくも燒け枯れて街路樹の殘骸を瞰しては、天變地異の殘虐に對し、深き戰きと怨みの、流石に禁じ難きを覺ゆるものだ。

さりながら、我等の回想瞑目の裡に閃めく記憶は、只に、かの天災の、人類に對して爲せる殘虐、それのみに止まるものであらうか。

○若しも、只にそれのみに止め得る我等ならば、我等は彼の妾宅を燒かれしブルジョアの徒と共に、冷然として、バラックの改築に心を碎くであらう。或は、彼の宗教の亞片に醉へる五尺無爲のやからと共に、天災は神論のみと齊嘯かば、以つて足りるであらう。

然れども、今、我等が腦裡、一切の記憶の消ゆるとも、とこしへに消え難かるべき一點が存するを知るそれは、言ふまでもなく、か〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇我等の同志の痛ましき追憶である。げに、未曾有の大地震の一週年に逢ふに際し、我等の回顧すべき題目は、むしろ天災その事にはあらずし、〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

○凡そ、社會の進化は必然の數である。恰もそれは、大海に朝宗する水の如く、極めて自然にして、不滅の原則である。而して、それはまた、當然に無一無二の力たらざるを得ない。我等が、社會主義を死守するも、畢竟、此の大原則の上に立ち、此の力の必勝を固く信ずるがためである。從つて、我等が、社會改造の運動を起すも要するに、此の思想に基いて、社會進化の歷史的使命を、その必然の進路に急がしめんと念ずるの外、何等の他奇あるものではない。況や、劍とか、爆彈とかは、我等の進む途とは、本質的には何の關りもないものであつた。

○然るに、何者の頑迷ぞ。特權階級の徒、獨り頻りに、歷史の眞理を拒否し、社會運動の進路を遮らんとする。而も、之を拒否し遮るに、〇〇である。私は、特に此の點に就いては、我國民の賢明なる考慮を望むものである。

○事、既にここに至れば、我等と雖も、亦、これに應じて、自ら〇と〇〇との便徒とならざるを得ない。相手が、力を持して、その不止の特權を守る限り、我等もまた、之に應じて、自ら眞理を守るに、力を以つてするより他に斷じて途かないではないか。

○××××××。眞理を守る者の生命は、たゞ〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇。思へば人類の過去の一切の歷史は、階級鬪爭の歷史であつたのだ。ただ併し記すべきは大正十二年九月以後の我等の階級鬪爭の底には、〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇。而して、これのみが地下に怨み眠れる同志へのせめてもの餞であらう。

○帝都は復興されて行く。地震の跡は遠からず消え去ることであらう。乍而、社會そのものの中に蟠屈せる力は決して、このまゝ消滅するものではない。さらば此の力こそ再び地上に、何ものを生まんとするであらうか。(岩)

震災當時の官憲諸君に與ふ

進め(同人)

(一)

震災時に於ける官憲諸君!!!忘れもしまい。諸君はあの非常の際に乘じて、我々無産階級解放運動者に對して○○○○○○○○○○○○○○。諸君は何物を以てするも最早その事實を蔽ふことは出來ない。日本社會の最も進歩的部分は皆、震災の非常時に乘じて諸君が『成さんと欲した所のもの』而して『成し得た所のもの』を既に知つて居る。人類の歷史に於て、かの暴虐極りなき專制政治が幾度か成した所のものを諸君は――一九二四年の日本震災時に――行つたのだ。

(二)

震災時に於ける官憲諸君!!!

思ひがけなく――まさかあの樣な共同の天災に際して、○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○と は、我々の全く豫期しなかつた所である――あの非常に際してうまく諸君の陰謀に陷れられた我々は、全く葦のそよぎにも心驚かす落人であつた。我々の不肖と雖も元より主義者と名乘る身であれば、主義に殉ぜんことは覺悟の前である。けれ共あの人皆が協力を要すべき共同の天災に際して、○○○。こゝに一週年、憶ひ出しても切齒扼腕悲憤の涙を禁じ得ない。

(三)

震災時に於ける官憲諸君!!!

かくして諸君は諸君の計畫を或る程度迄滿足さした。が飜へつて諸君は、我々社會主義者の何人を當時諸君の組織的に傳布せし『放火』『投毒』『投彈』『殺戮』『暴動』の流言蜚語に該當せし者を舉げ得たか。我々が當時何等機に乘じて爲す所無かつたことは、諸君が後に如何に苦心して我々を法網に陷るべく證據を集めようとしても集め得なかつたに見ても明かではないか而も△△(大杉暗殺に就ての陸軍省の發表)では無かつたか。これが諸君の一片の理由である。

(四)

震災時に於ける官憲諸君!!!

確かなる方面より我々の知れる所に依れば、あの△△△交渉した確かな言葉であつたと聞く。(因にこの陰謀の十分進行しなかつたのは、卽ち局部的にしか行はれなかつたのは、九月四日以後内閣が代つて山本内閣となり後藤新平氏が内務入りとなつたが爲だと云ふ)。而して今又巷間傳へて曰く『震災時の流言蜚語の根源地は實に參謀本部及び警視廳であつた。彼等は社會主義の勢力を過信して居た彼等は罹災市民の食糧騷動が起り延いて△△の導火たらんことを恐れて、先んじて民衆の心理を他に轉換せんがために、鮮人襲來主義者陰謀の噂を突嗟の間に傳布すべく決定したものである』と。

(五)

震災時に於ける官憲諸君!!!、

實に諸君は、非常の際に乘じて一種の社會力を巧みに利用したのだ。あの樣な混亂に際して社會の欲するものは何より第一に秩序である。何故ならば秩序なくしては食糧も得る能はず、生命の安全も保し難いからである斯る時に斯る社會學的作用を應用されては、王侯の勢力と雖も崩れざるを得ない。諸君はこの社會學的作用卽ち社會力を巧に利用したのだ。諸君は我々を陷れるに、『非常の際に乘じて秩序を攪亂し、民衆の幸福を破壞せんとする者』を以てした。諸君は我々に罪の冠を被らしむるに、『秩序の敵、社會の敵』を以てした。諸君の兵法は見事に奏功した。我々は諸君の術中に唇を噛んで悲憤の涙を拭はざるを得なかつた。

(六)

震災時に於ける官憲諸君!!!

否日本の支配階級政府諸君!!!

かくして諸君は結局我々に何を敎へたか。諸君は我々に一つの模範を示した。而して同時にその何等容赦する必要なきことを敎へた。『ある機會に乘じてその時釀された社會學的作用を利用して、相手を倒すことだ』。日本の階級戰に於けるテロリズム乃至流血手段は先づ諸君に依つて範を示された。

日本の支配階級諸君!!!諸君は曾て資本主義を助けた社會條件が、社會進化につれて後には資本主義自體の束縛となつたことを、よもや知らないことはあるまい。それと同時に諸君は忘れてはいけない――曾て諸君が我々に對して應用した社會力の、他日轉じて諸君自身に應用さるゝものゝ或は來らんことを。

日本の支配階級諸君!!!それは我々の知つたことではない。諸君が我々をあに然らしむべく範を示したのだ。△△△

(石川生)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

社會混亂と自警團

昨年の震災の折り、青年、在郷軍人、消防隊等が、自發的に警護の任に當るべき組織を作つたのが所謂自警團と稱するものである。あの非常時に、人心の不安を除かん目的の下に、自ら何等か組織を作つて、自らの警護に當ることは頗るい〻事であるのみならず、ぜひともしかありたいと僕は思ふ。警官や軍隊ばかりを、何よりの頼みとなす習慣は、もうそろ〳〵脱却すべきである。

さて、かくの如く、頗る善い目的のもとに組織された自警團が、また何故に當時、世間から憎惡され、輕蔑されねばならなかつたが。ここが國民の今日冷靜に考ふべき題目だと思ふ。世人の惡評の理由といふのは謂ふ迄もなく自警團の行動である。その亂暴狼藉な振舞である。僕は○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○、その時の彼等の行動は全く正氣とは受けとれなかつた程である。彼等は、殆んどそれは仇敵にでも對するようであつた。それは要するに、日本の國民の腦裡には無意識に、曾しの「日韓合併」の記憶が刻まれてゐて、そこから更に、何時が朝鮮人が復讐しはせぬか、獨立運動を起しはせねかとの潜在意識が働いてゐるからに外ならぬこの潜在意識が、一度びかの震災の人心動搖の際、電光の如く日本人の意識の上に閃いたのである。社會主義者に對する彼等の考へも全く同一性質のものであつた。社會主義者は常に不都合な陰謀を企むもの、恐ろしい事をする奴といふ概念が國民の頭に先入主となつてゐたためにあんな場合には、第一番に主義者を警戒せよ、やつつけて仕舞へ等といふ結論に到達するのだと思ふ。朝鮮人や、社會主義者に對する以外にも、自警團はずいぶん暴行を働いたものであるが、畢竟するに、自警團が世間から常時惡評の中心となつたのは物の考へ方が間違つてゐたといふ結論になる。言ひ換へると思想そのものが間違つてゐたといふ結論になる。例へば、偏狹な愛國心にのみ囚はれてゐたために、朝鮮人を曲解してあんな○○○○○○○○○○○○○○○。社會主義に少しく理解があれば國民（日本國民は大多數が貧乏人である）は社會主義者に對抗することは、間違つても出來たものでない筈だ。まして故なき暴行の如きにおいておやである。

僕はこの程、地方に行つてそこの一同志と、消防隊のことで語り合つた。現に消防隊であるその同志の言ふには「今日では村の警護は事實に於いて消防隊の手に歸してゐる。夜警の如きもみな消防隊の仕事である。然るに此村の夜警といふ仕事をよく考へてみるに、それは大體、大金を所持して夜行する者を警護するようなものだ、つまりは貧乏人の我々が、多勢で少數の金持のために夜も寢ずに警戒してゐるに過ぎぬといふ事になる。金持と貧乏人との階級的關係を知つて來るとこの夜警が馬鹿々々しくもなる。併し私かに期してはゐる」と。僕は此に意味深長な話だと思ふ。こういふ青年達に依つて村が、國家が、警護される樣になつた時、萬一非常混亂が起たらどうだらう、その時にこそ、目的と行動とのぴつたり一致した立派な本當の民衆警護の組織としての自警團が生れ出づることであらう。

（藤江）

流言蜚語と新聞

平時は、兎も角も理智が明敏に動く。從つて、有り得べきこと有り得べからざるとの差別がつき、飛でもないベラ棒な事は一笑に附せられる。然るに一度、何か驚愕すべき事件に出會ふと理智がたちまち失はれ、判斷の中心が狂つてくる。昨年の震災の如きは人心をして極度の不安驚愕に陷入れた事件の最たるものであつた。從つて流言蜚語なる者が盛んに行はれた。ほとんど、一ケ月餘といふもの流言蜚語が人心を支配してゐたとも言へた。

あの際、流言蜚語は、市井の無賴の徒の惡戯とされた。或はそうかも知れぬ。しかし誰れが先に言ひ出したとその火本を尋ねるのは愚の骨頂だ。で、僕は火本よりも寧ろ漠然とした流言蜚語を無批判に信じてそれをそのまゝ公表する奴にこそ、火本以上の罪を着せるのが至當だと思ふ。それは言ふ迄もなく新聞である。あの當時の新聞紙が、今手もとに無いので實際の證據を擧げるワケに行かぬか、隨分出鱈目な大馬鹿な記事があつた。殊に例の「朝鮮人が井戸の中へ毒を投入した」等の低能記事の如き、ただに、出鱈目記事としてそのまゝ看過し得る性質のものではなからう。あの記事がどんなに、かの屁のような街頭の流言蜚語に確實性を與へたか計り知れぬ。この爲めに、朝鮮人がどんな目にあつたかは改めて言ふ迄もあるまい。僕は後にあの時の○○のだ。

社會主義運動の記事を新聞で讀む度びに、僕は新聞記者の無智低級には腹を立たされる一人だが、震災の時の如くさなきだに流言蜚語の盛に飛ぶ場合、それを公表して害毒するような新聞の行爲に對してはもはや單に低級位の罵倒をあびせただけでは許されまいと思ふのだ。震災を回顧して僕は先づ流言蜚語を思ひその害毒の案外に數多の人命を傷ふに至るに、及ぶとき、まるで流言蜚語製造屋の感ありし「新聞」といふものを何より第一に抗撃しなくては居られなくなる。而も今後もいよ〳〵益々ヒドイ出鱈目記事で人を迷はすかと思ふと實際どうにかしなくちやならぬと思ふ。（藤江）

昨年の震災時に於ける
龜戸事件の尊き犧牲者

寫眞の説明

前列向つて右より
山岸實司君（二十一才）
川合善虎君（二十二才）
北島吉藏君（二十才）
佐藤欣治君（二十才）

後列向つて右より
加藤高壽君（三十才）
近藤廣藏君（二十才）
吉村光治君（二十四才）

右七名の他に、鈴木直一君も（二十二歳）同じく××れた同志であつたのだ。が、殘念ながら、同君の寫眞が、どうしても手に入らなかつたので、之をこゝに揭げて共に君の面影を偲ぶことが出來ない。

また、同じく×××された平澤君の寫眞は、別の頁に揭げてある。

震災一週年に當つて、かうして、恨みを呑んで地下に眠れる同志の寫眞を見つめると、新しく涙が湧く。靜かに、これら逝き同志を追憶し僕等は更に百倍の勇氣を振ひおこして××戰の準備をせねばならぬ。

××し南葛の同志を憶ふ

しげたか

血に狂ふ秋　九月
無產者の大旆
空しく天上に飜り
地上には凄まじき
血の動亂　肉の渦卷き
あゝ憺として横はる空骸
殺せしは誰れ？
殺されしは誰れ？
この恨み何時の日か消ゆる

地殼一と度振動し
猛火發して萬象を嘗む
人心一的を失して狂奔し
あたら豺狼の爪牙となる

落陽慘として××を染め
殉道の戰士、南葛の同志
歷史必然の軌道に倒る

されど道なほ遠く
犧牲の血に淚す　幾人ぞ
早くも迎ふ　第一回紀念日
我等後より進む者
死屍を超へて戰はむ
噫!!—今その時……。

虐殺に果てた南葛の同志を憶ふ

相馬一郎

（一）

九月が來た。我々の悲しみと憤りが新に蘇へつて來る。修羅の巷と化した昨年の今日兇暴な自然の力に打ち砕かれた人間が、日常の見苦しい個人鬪爭から解かれて、かうした時にのみ發現する互助友愛の美はしい行爲を示した。

しかし常に人間愛に燃ゆる精神の所有者たる我々の同志は、身を挺してこの兇變事に際し一般民衆の救護に盡力した事は云ふまでもない。

○○○○○○○○○○○○○
○○ 官憲の發表によると止むを得ざる適當な處置であるといふ。しかし、我々、彼等同志の日常の生活行爲とその抱懷する思想を識るものは、當局の發表の全く虚僞であることを信ずるのである。

その後、我々の決死的努力の調査に依つて官憲の獰惡虚僞の理由は根柢から覆へされた。

（二）

兩手を固く縛された同志達は如何に反抗したくも反抗し得まい。よし出來得たにしても「爾止むを得ぬ△△△△△△△△ぬ程の危險」を彼等武裝せる軍隊に加へ得るであらうか!!

後から後からと我々の○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○しめる。

九月三日深宵より四日拂曉に亙つて、あの混迷惑亂の巷の空氣に異樣の凄音を立てた銃聲は疑ひもなく△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△

△△!!

階級闘爭を生活の信條とする我々は、今更の如く支配階級の暴虐の非を鳴らすものではない

しかしながら、○○○の無智な姿を思ふとき、我々の胸が張りさけんばかりだ。

○○○う!!

彼等同志は決して泣き言を云はなかつた。たゞ與へられた悲痛な運命とは云へ、事業半に斃れねばならぬ事をどんなにか無念に思つたであらう。

△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△たらう。

彼等は思つたであらう、人命救護に孜々として從事する者を由なく○○○○○○○○○には自分達の仲間といふ仲間も同じ非業を遂げたであらうと。

しかし吾々は辛うじて生き殘り、事件の眞相は日を經るに從つて、新しく目ざめたる同志達の前に示され、味方の戰列に強激な感動を與へつゝあるのだ。

（三）

この事件は、實に支配階級の意識的計畫的○○である。彼等はこれを永遠の暗に葬らんとして得ず、その骨すらも我々の手に渡すことを拒んだのだ。

司法權の發動は未だに見ることなく、○○命令指揮官は手柄顏に大道を濶歩してゐる。

司法權の發動——それは恐らく實現されないであらう。この塲合、○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○、法の發動をもとむることは無意義に了るであらう。

△△

亡き同志達は歐洲先進國に於ける我々同志に加へられた幾つもの「龜戸事件」を常に語り合ひ、そして、それを階級戰塲裡に於ける有り得べき事實として覺悟をしてゐた。

我々とても亦、徒らに支配階級の殘忍の暴を鳴らすものではなく階級闘爭裡に於ける必然の現象として之れに對するものである。

（四）

たゞ、我々の痛恨措く能はざるは、うら若い働き手をモロにやられて了つた事だ。

二十歳前後の有爲な活動分子を奪はれた事である。

亡き同志達は、皆生粋の勞働者であり、十五六の少年時代から階級戰に參加せる洗練された若武者であつた。

彼等の戰爭生活は實に崇高であつた。

敵を憎しむの火に燃ゐたあの反逆相、仲間を愛するあの純情の精神、實に階級鬪爭を生命とするまたと得がたき同志であつた。

君達斃れてこゝに一年、しかし、味方の戰塲に掲げらるゝ先頭旗のはためく音は君達の激勵の歌であつた。

民衆の行軍の喊聲の裡に君達の魂が躍つてゐる。

恨み深き龜戸事件!!その正しき審判の日よ!!

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

殺されし大杉を偲ぶ

原　茂陸

大杉榮と云ふ一人の男が此の世界から消ね去つてから、既に一年近くの歳月が過ぎた。云ふまでもなく彼は、去年の秋、關東地方を襲つた大地震の餘沫を浴びて、憲兵大尉甘粕の手にかゝりむざむざと伊藤野枝、橘宗一と一緒に殺されてしまつたのである。今や吹き來る秋風と共に記念すべき、その一周年が來たのだ。

彼の死はまことに痛ましき一頁を、わが社會運動史上に、永久に殘さるべきものであり　あらゆる意味に於て、記憶さるべきである。

晩年に於ける彼の行動については種々の議論もあるであらう。殊に彼が思想的に、ボルセビズムに反對して、無政府主義を高潮したるが如き、その反對者にとつては、許すべからざる惡人であつた。しかし人事は複雜だ。吾々はその主義を以て直にその人を律する譯にはゆかぬ。口に社會主義を說きながら、その實生活に於て、それを裏切る行爲を平氣でやる人間の居る世の中だ。

ここにかく吾々現在の智識では大杉一個人に止まらず、あらゆる人間の社會的價値を計量器ではかるが如く、正確に知ることは不可能だ。そこにお互ひの爭闘、批難、攻撃が生れる。僕は今この事を詳細に論じてゐる場合でない。

大杉既になし。しかも、彼の死は、わが無產階級正面の敵たる支配階級の走狗によつて、震災直後の非常時に當り、度を超た不法無殘の暴手の爲めに絞殺されたのである。明かにそれは謀殺であつた。社會運動の一頭目として無產階級を背後に有することによつて支配階級の秩序のために彼は殺されたのだ。

この確かなる事實の前に、生前彼をスパイと罵つた者と雖も彼の死そのものに對しては當然敬意を表すべきである。

生き殘つた吾々は、彼の死を記憶することによつて、多事多難なるべき無產階級解放の前途に對し、その執るべき手段、用ゆべき方法を見出し、また吾等の疲れたる心をして、新しき元氣を振ひ起させるであらう。

死は吾人にとつて一切の終りである。あゝ悼むべきかな!、ブルジョアの毒矢によつて倒されたるわが大杉榮!!

大正十二年九月十六日、三十九才を一期として、その波瀾に富める一生の幕を閉じた大杉榮!彼の最後は悲慘ではあるが、しかし華々しき最後である。フランスから歸つてまもなく、未だ爲すべく多くのことがあつたには違ひないが少くとも彼の死は無駄ではなかつた。彼は平生三十位まで生きれば澤山だと云ふやうな意味を語つてゐたさうだが、徒らに生き恥を曝す奴に比べて、はるかに幸福と云ふべきであらう。それがせめてもの慰である。

大杉去つて一年、わが社會運動は萎微沈滞の狀なしとせぬ。

△△△△△△△△△△△△△△同じくせぬのは無論だが、吾々はこゝに考ふべき幾多の問題があることに氣づく。

景氣のいゝ時だけの同志が如何に賴りないかを知ると共に、彼の死を追憶することによつて眞に同志らしき、同志の有難さを感ずるのである。

靜かに顧みるに吾々の前途は未だ決して、さほど近しとせぬ。まだ〱澤山の犧牲を要するであらう。同士高尾も敵彈に斃れ恨みを呑んで地下に眠つた。吾等これを思ふとき、吾等の戰列を見渡して、悲しむべき事實の數々を見る。寂しさは增す。憤激はつのる。おゝ同志よ!!△△

△△△△△△△△△△△同志よ!!眞の同志よ――固く手を握り合つて進まう。

〇〇人〇〇を顧みて

安光泉

被搾取、失業、飢餓、離散、彷徨、△△、之等は、ブルジョア社會が、無產階級に與へた約束である。そして、△△はその約束中最後のプログラムであらう。而し之等は常に自由平等の名を假りて粉飾されてゐる。

東洋で最も妖艷なブルジョアの花を咲かせてゐる、日本社會は、昨年九月の大地震の時、最も大膽に其の正體を現はしたのである。

地震は、地文學上一の必然的自然現象である。然るに、無產階級の新興威力に、戰慄し初めた日本社會は、大地の怒動と無產階級の怒動とを、區別する力を失つて地震に依りて促された其の〇〇〇ことが出來たのではなかつたか。

朝鮮無產者は其の故鄕のブルジョアに限りなく搾取された。そして失業、飢餓、離散、彷徨等、切齒すべき總てのブルジョ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

僚友平澤を想ふ

——もう一年はすぎた——

杉山碧

□□の巨炎は輝き渡り
若い同志の血と肉とはおどろ、
そして先覺が血潮で書いた道しるべの彼方に
さんらんとギロチンは輝く。
□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□
然も日本の□□史を飾る
血の教訓の幾多を殘した
□□□□□□□□□□□
もう一年といふ時が流れた。
顧みすれば九月三日の眞夜中
□□□□□□□□□□□
臨月の愛妻と七歳の長女!
それより□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□

彼はかつて
『俺が愛してゐる祖國の手か
俺が愛してゐる民衆の手か
どちらかに打ち碎かれるとも
愉快な死に樣をする男だ。
俺は生粹の筋肉勞働者だ』と
一九一九年の創作の序にかいた
さうだ。彼は正しく五年の後
彼の最も愛した祖國の手で
まつたく打ち碎かれて終つた。

感慨無量!
同志の心臓は爆發せんのみ
彼が血で書き殘した
偉い教訓、血の道しるべ
今までもにみつめながら——

どんよりと曇りがちな
裏日本の同志も、今
この先驅者の恨みの後を追ひ
勇敢に□□のコーラスと共に
光榮ある赤旗の下に集まる。

『自我を捨てゝ自我に活きよ
宇宙と溶合せよ——
其の敵を打て
正義は喜び、力は溢るゝ——』
と戯曲『苦闘』の最後の一節

彼は社會的正義の使徒であり
ほんとうに正義の爲めに戰つた
正義の前に死を辭せなかつた。

だから——。
彼が最も愛した祖國の手で
右肋骨を打ち碎かるゝ殺那
歡喜して『こゝを刺せ』と
頭を——。
□□□□□□□□□□□□□
それから何ケ月のあとで
燒き盡された廢墟の中から
彼れの愛妻によつて
彼れのちぎれ靴が發見された。
然し彼の屍は他の同志と共に
ブルジョア國家の秘密の奥に
永久に葬り去られた。

けれど我等が、やがて彼等の
すべてをギロチンに送る時
僚友の死も慰められやう。

おゝ———
此の偉大な先驅者の最後!
光榮ある血の教訓!
□□家の最後は
正に斯くあるべき。

(九頁より續き)

固めてしまつた。影の方でチラチラ姿を見せてゐた銃劍を見ては囚人の血も踊らざるを得ないあはや一衝突と云ふ際どいところまで行つたが、屋根瓦が二つ三つ飛んだだけで事は納まつた

その他語ればいろ〱面白いエピソードもあるが指定の紙數も超加したのでこれで止める。

□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□た話はその後ポツ〱私共の耳にも入つて來たが、獄中の身はどうすることも出來ず、たゞ夜の永きを獨りかこつのみであつた。

ア文明の恩惠を經驗した。彼等は遂に其の家族に別れ故鄕を放れて、露命を繫がんが爲に、東京まで來たのである。そして彼等がブルジョア東京より得たものは槍に銃であつたのである。貧窮に泣いて居つた彼等の故鄕家族は、彼等の死に依りて何れ程其の涙を增したであらうか・彼等の前は涙であつた。死の瞬間も涙であつた。死後も亦同じく涙であるのである。

之れ昨年九月。日本大地震に犧牲となつた○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○。

而して、虐げられた者の涙と血とにみたされたる此の地上に、殺伐なき、善き社會が實現さるべきは勿論必然であらう。

然し昨年九月のことは、有ゆる悲憤中最も永く朝鮮民衆の記憶に殘されねばならぬ事柄である。

又九月が來る。回顧して瞑目すれば吾等の前には今もなほ四千の無辜同胞の流血と、凶惡を恣にした者達の○○とが交々鮮かに見えて來る。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

自警團（一幕）

牧野一郎

時　大正大震災三日目の夜明前

處　帝都近郊のある町はづれ

人　自警團第一班有力者早川外十數名、同第二班有力者三崎外數名、老婆、少年、避難者

猛火に包まれた帝都を背景に前面中央に小屋、下手に樹木三四本、時折物凄い銃聲裡に幕揚る――老若の避難者が鮮人襲來の噂に驅られつつ右往左往し程なく去る――銃聲。

老婆少年（上手より）　少年「お婆さん、危ない危ないまだ燃ねて居る……△△△△△△△△△△……」

老婆「そうだよ、雄一、今に來るかも知れない、この袂をしつかり握つてや」

兩人うろ〳〵しつゝ小屋の中へ物凄い叫び聲、銃聲起る。上手より拔刀を先頭に竹槍棍棒等の自警團第一班提灯をふり廻して來る。皆頭笛・襷の武裝姿でしかも不安におびねてゐる有樣。

甲「鮮人が入込んだらしいぞ油斷すな」

乙「危ない―この町もいつ火の手が揚るかも知れないんだ」

丙「おう、探せ、探せ、危險な奴は片つ端からふん捕つてしまへ」

口々に罵りながら下手の方へ行く、提灯を持つ早川のみ木蔭なご探して最後に小屋を覗き驚く

早川「呀つ、居るぞ、鮮人だ、韓人！」

一同「△△△△△△△△△△△△△△」

（小屋を包圍して無茶苦茶こ突捲る）

「あつ……」

「あつ……」

早川「萬歲、外にまだ居るかも知れないぞ」

一同「態見ろ！好い氣味だ、それ行け……」

一同狂氣の如く昂奮して退場、二三の避難者行交ふ。第二班武裝して來る。（上手より）

三崎「おい、あの火を見う、東京は丸燒けだ」

A「鮮人の仕業だ、おのれ！」

B「○○○○○○○○○ないぞ」

（木蔭から犬走り出づ、皆ギョツとなる。

C「△△△△△△△△△△」

三崎「犬だ、犬だ、騷ぐな」

B「うむ、犬の野郎だ、しかし狂犬らしいぞ」

A「井戸へ毒を投込んだり狂犬を追放したりして居やがるんだ」

E「關東一千萬の人命の爲、吾々は一刻も油斷が出來ないんだ」

B「△△△△△△△△これだ！」

」△△△△△△△

（折から物凄い銃聲に一同靜まる――沈默――

（小屋の中から呻き聲聞ゆ）

三崎「おいなんだか呻つて居やがるぞ」

A「おりやなんだ」

B「何處だ〳〵、小屋の中らしい」

一同「小屋だ〳〵、見ろ、提灯だ！」

不安におびねつゝ竹槍でさぐると少年竹槍を握つて轉び出づ―（次第に明るくなる）――一同驚く。

三崎「あつ、小供だ」

（少年苦しげに小屋を指差し訴ふ）

C「おい、まだ誰か居るぞ」

B「お婆さんだ、お婆さんが死んで居るぞ」

三崎「おい、この小供を手當してやらんこ參つて仕舞ふ……」

少年を運び去り老婆を小屋から引出す（夜明）

C「この婆さんは君、四ッ角の小間物屋の人だぜ、ひごい事をしやがる」

A「やりやがつたな、早い事仕やがつた」

B「そうだ、鮮人の奴等、小供こ婆さんを殺して小屋の中へ入れて置きやがつたんだ」

E「違ひない、こんな年寄こ小供を殺すなんて卑怯な奴だ」

（矢鱈に昂奮す）

C「そう云へば宵の内に小間物屋の前をうろ〳〵してゐた奴があつた」

一同「△△△△△△△△△△△

△△△△△△△」

（騷ぐ内に前の笛一班歸る）

早川「やあ、御苦勞、怪しい奴等は通りませんか」

三崎「ゐらい事があつたんだ、お婆さんこ小供が殺されて居たんだ、この小屋の中で」

（歸つて來た連中ハッこ思ひ顏見合す）

三崎「△△△△△△△△」

一同「そうだ、違ひない、おのれ、今に見ろ！」

早川「ひごい事をしやがる」

（惱む心あり〳〵こ見ゆ、第一班の連中なんこなく沈む）

C「△△△△△△△△△△△

△△△△△△△△△△△△

△△△△△△△△△△△△△ふんだ！」

（老婆の死體に莚を掛けて二手に分れる）

早川「三崎君、君達は勇敢に一番國道を守つてくれ給へ」

三崎「よし來た、君達は何處へ？」

早川「僕等は町をもう一度視廻つて縣道を固めるから」

第一班「頼むぞ、怪しい奴は一匹もこの町へ入れない樣に」

第二班「承知した、既に覺があるからな」

一同左右に分れて――遠くの銃聲――　幕

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

地震の憶ひ出

—獄中震災記—

田代常二

社會的に絶大な影響を捲き起した昨年の、關東地方に於ける大地震は、何人と雖も豫想せざりし所であらう。況んやそのために引き起された數々の悲慘事の內特にその社會運動に與へた影響は誰か、そのあまり意想外なるに驚かない者があらう。今となつては、たゞ夢の如き感じを與へるに過ぎぬとは云へ、殊に吾々社會運動に携るものにとつては、忘れんとして忘れ得ざるものがある。新聞紙に發表されたる所によれば形に現はれたる物質的損害高五十五億に上るといふ。その有形無形の被害に至りては、はるかに想像の領域を逸脫してゐる。

現在に於ても未ださうだが、震災前に於ける社會運動は、依然たる群雄割據で、運動は斥候的、散兵的の小競合に過ぎなかつた。十年經つても百年經つても動きさうもなかつた日本社會運動の巨頭堺利彥氏例の共產黨事件で入獄し、大杉、フランスに去り、少くとも表面上、寂寥を極めたに當り、突發したのがあの大地震である。

だがさう云ふ私は、幸か不幸か、この社會的大混亂の旋渦から隔絕された、東京市ヶ谷刑務所に拘禁中であつたのだ。

メーデーで十日の拘留を喰つて一月も經たぬ間に、どんなカラクリからか知らぬが、とうとう監獄入りを仰せつけられ、高尾が殺されたのも、大杉が歸つたのも獄窓の風聞によつて知つたのであつた。

內閣が變つたとか云ふ事も聞ゑて間もなく起つたのがあの大地震である。

大正十二年九月一日正午、晝飯を了へた私は、狹い監房の中で、机に凭れながら、ぼんやり、窓の外を眺めて居た。天氣は好く、鳩の啼き聲が閑かに聞へて來る。窓を遮つて植ゑられた樹の枝が搖れもせず靑空を刺つてゐる。

突然監獄の横手にある通用門が開いて、囚人自動車が唸きながら入つて來た。すぐ側を通るのでひどい地搖れを伴つてゐる。その刹那である、自動車の振動だと思つたのが、何時の間にかすさまじい地震に變つてゐた。搖れる搖れる、からだが宙に浮いてゐる樣だ。その中にブル〳〵ドシンと來る。壁に立てかけてあつた窓ガラスが倒れる。土瓶が轉けて水が流れる。四角な部屋が三角になりさうだ。今にも天井の下へ押つぶされさうな氣がする。

方々から怒鳴り聲が聞ゑて來た。看守がひきつゝた樣な聲をして監房の前を通る。ガチ〳〵ガチャンと音がして、戸が開かれた。すぐ外に飛び出すと、他の連中も皆異妙な表情を浮べて集まつた。芝生の上に座り込んで二階を眺めると、まだ出されない既決の囚人か窓から手を出して騷いでゐる。「早く出せッ」こちらから怒鳴る。

傍らには、堺氏が白い布切を手に持つてシャガンで居られた。吉田一君か大きな身體を搖ぶつて、面白さうに煽動的言辭を發する。他の連中がそれに止めてゐた。

濛々とした砂塵で空も曇り地震は幾度か盛返さうとする。炊事場から表玄關の方へかけて煉瓦が壞れ、壁が倒れかゝつてゐる。外廓の高い煉瓦塀も、長く續いて地上三尺位のところからひゞ割が出來、向ふの方では四五間位打壞れて居るところもあつた。

門のそばから離れて奧庭の方へ、出て見ると、全部の監房から解放された囚人が、一團一團と群をなし、その間を右往左往して歩いてゐる。

かくしてその日は暖い夕食を喰ひ久し振で狹い檻の中から出て高い塀に圍まれては居るが、野天の下に莚を敷いて寢たのである。だがどうして寢られるものか!

燃ゑる燃ゑる!、赤い赤い、どこが燒けてるのか、まるで東京全部が火の海でないか? 天を焦す久遠の炎、木の上に登つて見るがどこまでもたゞ赤い。いつまでも續く!!

もう大分暗くなつてから、提灯を持つた戒護主任に導かれて辯護士の布施さんが私達の方へ來られた。所謂社會主義者たる私共は他の千人以上の囚人達と離れて、二三十人が一かたまりになつて居たのである。

布施さんは非常に昂奮した樣子をして一同の無事を祝し、重大なる震害の模樣を語られ、今警視廳が盛んに燃ゑつゝあると云はれると歡聲が湧き起つた。會話を皆熱心に聞いてゐたが、感謝の拍手を交はす暇もなく、浴びなら愴惶として去られた。後で、吉田君が皆からせがまれて、米村辯護士の顚末から、高尾君の社會葬までの委しい話をしてくれた。

翌日九つの各檻から代表者を選んで囚人を解放すること、それが出來なければ數名の視察人を囚人の中から選んで自動車で市中を見廻らして、各家族の安否を確かめることなどの交渉をすることになつた。

大會のとき一人の代表者は聲淚共に下るが如き悲痛な言葉で聞く者の胸をつまらせた。しかし交渉は結局無効に歸し、とにかく後庭の赤煉瓦が少しでも崩れれば解放するし、市中の模樣はよく調査して報告するから位のところでなだめられてしまつたのだ。やがて緊急動議で、斷じて監房に入らないことを決議して解散した。

さうしてゐるうちに先方ではどん〳〵準備を整へてゐるのである。はじめの程は全く獄吏の方でも稀代な事變に面喰らつてゐた。だが流石は商賣柄だ。何時の間にか監獄の周圍を軍隊で

（七頁へ續く）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

全土戰報（進め支局通信）

岐阜縣

地方青年の進路

當青年團の組織は、第一區第二區第三區各支會より成立て××青年團と稱し、そして町の金持の息子を青年團長とし、駐在所の巡査、頭のはげた町長及び役場の吏員、小學校訓導、町有志者等の指導の許に蠶業期には夜警巡回、時には青年團に自警團を組織し團員より模倣犯人を選び赤・紙の召集令狀を付青年團員を召集し內警等を行い又青年の敎育機關としては補習敎育、あるいは都會より名士を呼び一夜講習會を開き修養講話を聞かせ、青年團は修養の機關であるから利己主義をはなれ、あらゆる社會の奉士的事業にたずさはり働かねばならんと團員に訓練し、只外來思想に侵されてはいかんとか、個人主義に流れてはいかんとか物質主義に流れてはいかんとか、權利思想ばかり崇ませて義務觀が薄らいて來てはならんとか云つた種々なる理由を附し青年が潑溂たる思想に向はんとするのを迎へ、精神的に自由自在に支配し、之に青年團員は支配され、まるで猿が藝を數へられて其の數へられたまゝに働き奪德主義流汗勤勉主義を奉じて來た。地方青年も社會進化の大勢に呼び起され長夜の眠りから醒め、現在の狀態では自ら考へ自ら案出し青年特有の時代的新物を創造し提供すると云ふ氣力は益々盛になり、新思想を代表せる無名の青年が本團にも增出し最近青年團にては運動部、及び辯論部、圖書部等が設けられ、盛に團員の體育を奬勵し、辯論部にては盛んに討論會、研究會、講演會等が催され社會問題、思想問題に關し堂々と熱辯を揮い圖書部にては青年團の機關紙として雜誌「血流」を發行する事に協議し九月一日創刊號として世に出さんが爲に編輯部にては「血流」の編輯に取りかゝりペンを走らせ活躍して居り、吾々「進め支局」同人も官製青年團機關誌發行の關係者の一員として共に活躍して居る事を全國の同志に告ぐるものである。

前に述べた樣に社會の進化に向いて進み、團員の自覺と共に青年團の組織の內部より一歩一歩更に一歩と改造されつゝあり今後當青年團は如何なる方向に進むか、當地青年團の進路は我等の生存する人間社會の合理的なより善き社會創造の爲に努力し我等の一般青年の自主自活を目的とする新社會を建設せんが爲に進展しつゝあた事を吾等は深く確信するのである。

（加茂郡下麻町—水野貝二郎）

大阪府

官製青年團員の正体

最近此地で私達の注意を惹きだしたものに青年團員の中に青年團そのものを慊らなく思ふ者が多くなつて來たことである。此事實は偶青年團なるものが青年それ自身のものでなく、それに官制なる二字を冠せしむるのが至當だと云ふことゝ、その事業なるものが如何に輕薄な、その何れを執つてみても青年の本質に觸れて、それが惹付ける力の見出し得ないもののみだと云ふことゝを當の青年團員並に一般青年に訓ふるものとして私達は寧ろこれを喜ぶべき現象とみるが併し、心の內では青年團を全く離れた團員の現狀を想ふ時「遺憾の感に堪ねぬ」を獨彼官製青年團長の占有にのみ委ねて居られないものがあることを痛感する。卽ち彼等が私達の立場からみても極めてその正しさに置かれてゐないからである。云ふまでもなく青年は、多分に領有する理智と情熱とに依つて始終眞理を探り目標を定め、それを追つて行動することに寧日なしの有樣なるべきがその本來の狀その正しさである。苟くも青年か無聊に苦しむが如き最早すでに青年の價値と使命を大半失つたものとみるべきだらう。

然るに今彼等は無聊に苦しんでゐる、無聊に苦しんだ揚句、或は酒に、或は女に耽溺して一時の安易を貪つてゐる、又或は半可な厭世思想に捉はれて尊い若い生命を徒らにしてゐる。而して彼等が共通に所有するものは功利と卑屈と野心しかない。

顧つて思ふ、今彼等と呼ぶ多數が私達と同じく無產青年であり、從つて私達に胸か苦しくなる程の遣る瀨なさを覺ゆさしめる彼等の現狀も現代の社會組織に躍られた結果であり、彼等にも青年團を離れんとしたとき意識的にしろ無意識的にしろ「我等何を爲すべきか」と呼號し

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

た偉い瞬間のあつた。ことを覺ゆる時・彼等こそは當然私達の陣營に參加して〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇い。

思ふて此處に至る時此處にも私達の使命の一つがあることを痛感する。すなはち彼等をして彼等が嘗て求めつゝも得られなかつたものは社會運動に投ずることによつてのみ摑み得るものであることを覺らしむることである。而してこれはかくすることによつて彼等をその歪める現狀より脫せしめ、若い生命の充實感を恢復せしめつゝ、私達の陣營に新しき味方を加へるものと信ずるが故に、又多くの先輩の言に忠實な所以でもあるが故に、私達は今迄もさうであつたやうに今後益々青年團員其他の中に同志を求めて、此等諸團體中の無產者全體の覺醒を促すことに努めたいと思ふ。（大阪市外中本町巳下部千代一）

長野縣

颱風一過の我が陣地

當地の樣な僻村にも大檢擧の餘波はひゞいて忽ち・反動分子の愛國主義宣傳が初まつたのでした。

村長は印刷物を配付して曰く

「赤化青年の生れるのは其の父兄の監督の不行屆きに原因する若し今後 赤い本等讀む者あらば徹底的に懲戒して忠良なる臣民となす事」等の駄句を連らねて天晴ブルジョアの走狗なることを證明し、在鄕軍人會は軍事思想普及大看板を揭げて活動寫眞を開き國防の急を說き、賣國奴（社會主義者の事）の恐るべきを極論し民衆の變動につけこんでミリタリズムの魔手を延ばさんとしたのでした。又駐在所には頭腦明晰ならざる木ッ葉頑張り同志を代る〳〵呼びつけて左の如き滑稽なる質問や說教を試みたのです。

「君等は全體村の注意人物だ相ではないか。それが百姓と云ふ天職に勵まずに危險な社會主義にカブれて、どうする積りだ。一流の博士が研究しても判らぬ事を君等の頭で知らうとするのか大體間違つてゐる……」と又曰く

「健全なる身體には健全なる思想宿る、と、もう少し運動でもやり給へ」

如何に屁理な所を正直に現してゐるではないか。

右の小さい事は皆下伊那の反動勢力の張りか、各村に及ぼした一現象です。今迄に角 下伊那を白色の魔手が、勝誇つて居るは事實です。然し、反動の徹底的に來たのに對して我々の運動は決して遲れてゐない。

壓迫に續くに又壓迫に同志はいよ〳〵固く結んで守り〇〇〇〇〇一方には獄中の同志及び家族救護に全力を向けたのでした。一時的な反動熱は冷氣の來せるに合せて散り散りする事であらう、然し反動家共（ゴロツキ手）は國粹會支部を造つて我々の陣地の切り崩しに努めて居る。

けれ共、彼等の力が何であらう。我々の前に何があらう。牢獄よ來れ、壓迫よ來れ、我々は決して動かぬのだ。是が同志の叫びなのです。

全國の同志の大同團結から、一切の支配階級に向つて堂々と戰ふの近い將來だと吾々は信じて居る。

國際無產青年デーの近づく時我々はより固き團結に急がねばならぬ。同志諸君幸いに健全なれ。（信州南信生）

和歌山縣

資本主義の魔の手

紀南地方は日本の內でも時勢に最も遲れた所だけ、風俗習慣及び產業等大に封建的傳統を守つてゐる。しかし、都會に根をおろした資本主義が追々田舍を侵略するのを認ざるを得ない。總ての仕事や日常生活が營利のため、私有財產を增進、支配慾權力慾に利用されてゐる。封建をブルジョア制度との衝突、いがみ合する折柄、一部の新人は既に資本主義の缺陷を認めて、之に對抗し、之を破毀せんとしてゐる。親子の衝突、小作對地主の爭ひ、水平爭議等封建からブルジョア制度へ、或は新社會へ飛躍的に進展せんとするもの〻惱みと不平の爆發したものであらう。

紀南で中心地の御坊には資本制度の寄生蟲とも言ふべき切小賣商人があり餘つて居つたのが昨年來の不景氣が田舍まで襲來して、食ふて行かれないので四散し 借金ばかりに淋れて了つた。當地出身の仙人代議士田淵吉豐氏の兄に貪慾な地主がある他の小ブルジョアを唆かしてその日の生活に追はれる憐れなプロ連中に地代六割値上を通知しだ。時代思想に目覺めない勞働者も、當面の生活問題にブッツカッテは泣き寢入もならず、同年一月寺院を借り、値上反對演說會を開いて委員を選び地主に交涉せしめたため、もとの地代で治まつてゐる。

一時一千內外の人夫職工を雇入れて最暴利を貪つた、由良セメント會社に昨年、職工の顏役小森君が種々奔走して大阪から總同盟の幹部數名を呼び寄せ支部の發開式まであげたが、その後の不景氣とブルの瘦せ我慢こで支部の發起人等首切られ、解散するの憂目を見た。此の會社に最近又もや五百の職工中三百名か不景氣にかゝわらず、突然首切られた。他の會社は缺損であつても此の會社は職工人夫の

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

勤勉努力を安い賃金で購買して餘程儲けてゐる。ハチ切れる程腹の太つた重役株主連はモハヤ搾取の餘地なき職工を餓死せしめんとするのか。地獄の閻魔大王の裁きを待たずとも、娑婆社會の××は彼奴らは必ず罪の報ひを受けるだらう。

現社會のドン底に生活苦を訴へる農民は羊の如く弱く且つ從順に、政友會や憲政會の如き喰ひ潰し代議士にもハイ〳〵奉仕して、お上の命ずるまゝに汗と窮を蒸出する事に吝ではない。

そして今年の旱魃には最後の斷末魔を悶へてゐる。一年間の米代をすつかり水揚げポンプに入れてまで半作以下の憐めな水田を見守つてゐる所隨分多い。百姓はいつまで德川に去勢せられた傳統に緣を繼いてゐるのか地租、縣費、村費等種々の變つた名目で絞られてゐると自作農は何故煩悶と屈辱の日を繰かへしてゐるのだらう。小作人は多少とも醒し殿樣氣取りの地主を反省せしめ當然の結果村々に小作爭議が起つてゐる。

都會とは異つて土方人夫はまだしである。一里餘の縣道改修堤防修、紡績分工場設置あり、汽車や自動車が完備した產業の資本主義化が行はるゝまで勞働者の黃金時代が續くであらう。粗食の腹鼓を打つ位の事が出來やう。

常地には帝國主義敎育で天眞爛漫の青年團が名目だけ存してゐるが、何等新思想に根底をおく青年團が生れてゐない。新しいもの〻創造の惱に出食し。混沌として落つきがない。昔日の如く、僧侶や敎員、有志が青年の指導者たるべくあまりに頭がない。

過渡期として　反對のための青年團で、僞デモ代議士を擔ぎ廻る政治的青年團か數種出來てゐる。對米問題演說會を數村で催されたが、兩國帝國主義の衝突と見てのみ意義あり。それよりも時節柄、農村問題研究でもやる方がずつと効果が多く、頭を新しくするだらう。（紀南支局みのる松脇）

島根縣

方向轉換の悲哀

無產階級政黨、大衆運動方向轉換　合法的、理論的、資本主義の行きづまり、私は數へ切れない程のさうした私達、純無產者に取つて都合のよい言葉をパンフレツトや少數の主義者を通じて耳にし、目にしながら自分の日常と周圍とを考へるとそれ等の言葉とは可成り緣の遠いものである事に間違ひはないのです。

普選が實行されて無產階級政黨が生れた所で組合一つ出來てゐない此の地方の者として、誰を選んでいゝかさへ考ねがつきません。遠い所に居られる知名の士を選ぶにした所で、ひどく熱をあげる氣がしないのは什うした譯でせうか。私の無智と無學がさうさせるのでせうか。殊に女に選擧權はまだなか〳〵與へられない樣な氣がします。今與へられた所で、やつぱし女の中の誰れを代表者にしていゝかゞ判りません。組合でも造つて見た上でなければその方の事はハツキリ判りかねる樣な氣がします。

時代の流れに取り殘されて大衆と云ふものからおいてきぼりにされてゐるのか知らと疑つてゐます。しかし是れが、私に直接せまつてゐる現實なのだと知る時、私にどうしていゝか判らなくなります。私が世の中が、どうにかなれる事を望むのはシヤレや遊びや、見立や、外分ではないだけ、どうしたらよいのだと云ふ強い焦りが特に起ります。

東京に居た頃、女主義者の御歷々に近づいて行つた事がありますが（堺眞柄さんや、仲曾根夫人達のグループ）何だか調子が合はずに、こちらからともなく遠ざかつてしまひました。

私はあの人達よりも此の近所の百姓の女房達の方が、理解してもらへないなりに親しさをおぼへます。主義の共鳴者は得られないにしろ靜枝さん〳〵と好意を示してくれるのを嬉しく思ひます。たゞ私達は過激な勞働に追われて忙がしいのです。若い嫁さんも、娘さんも家族主義の中に閉ぢ込められて手も足も出ないのです。現在のどうしたらよいのだと云ふ焦りと惱みに解決のつく時がやがて來るかも知れません。それにしても女の相談相手が一人でも欲しいと思ひながら、それすら得られないのです。

あなた方のグループにも相手にされないかも知れないと思ひ

總ては動く

中濱　鐵

エエエの一列橫隊
錆腐の蒼空の刺肉
蒲鉾形に斷たれた十八切れの牢屋の窓
烏羽玉の轉び音、死苦？生苦？焦つく咽喉の帶の捩り
GA GA GA GA ――

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ながら、やはり本當の同志が欲しさにこんなことを書きました

眞夏の田の草取りは百姓仕事のうちでつらい仕事です。勞働時間を短くすれば、雜草が、所嫌はず蔓ころし田に、草を生やせば現在では困るばかりだし毎日々々仕方なく田の中を泥まみれになつて這ひ廻つてゐます。

夜はすつかりつかれて了ひます貴い夜の休息時間を割いて家の人は送つて戴いた『進め』を松江の町に自轉車で昨夜も今夜も賣りに出かけました。（松江市外　月高靜枝）

孕みたる熱風の臨月の横腹を群雲のブラシもて磨き上げし
攝氏九十九度の反射
煌き——轟き——投げ——響く——黒天井から惡血の吐砂
降り
吹き——捲き——逃げ——霽れ昏黄る
眞白の小鳩一番　鐵の格子の懐に抱かれ玉蟲色の小首傾
けて—pua?(罪吟)pua！葡萄色の眼に耀く小粒の露——ポロ
リホロリ

北海道

人無きを悲しむ

暫らく御無沙汰しました。煤煙の大阪に激しき資本主義への抗爭。本社諸君の壯健を祈る。

その後、小生は惡戰苦鬪と申そうか、歌志内炭坑では人夫ドロと誤解されて、身に、數ケ所の打撲傷を受け、宿屋に一夜呻き、明る日の朝、いたみと悲憤をかくして社會主義と勞働運動に對する辯明に力めた。あゝ、何といふ悲惨な皮肉であらう。農民黨はブルジョアの爲めに利用せられた。血の涙か流れる如何にして青年運動を起さんこひこり蹶氣となりつゝ手の出しようがない。

人家まばらな北海道。反動的な北海道。

事を爲すは人を得るに有り。人無き中にひこり苦悶する俺……

同志からは盛んに、爭議の勝報　組織成功の報導がある。自分の無力を顧みて胸いたむ。

私は靜かにも、また激しくも、全く悲觀しました。限りない絶望に、涙がにじむ。反逆の血は迸る。たゞ逝ける〇〇氏の心を解するのみ。

しかし、前途三年。靜かに戰はう。

嗚呼　朔北の孤島、生きることは悲しいものですね。壯健を祈りて。（山名正實）

廣島縣

閥を破れに付いて

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇あると云ふ事は既に言を待たざる所である。

然るに日本に於ける社會主義運動の先輩（有名な人）共が閥を造りて自己の勢力とか羽振とか名望の爲に行動するなれば如何に彼等が唱へる事が立派であつても決して無産階級解放の爲に戰ふのではなく自己の地位の爲め、自己の慾望を滿足さす爲であつて實に無産階級を裏切り運動を〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇す、エセ社會主義である。

日本に於ける社會主義運動も最早や一部先輩や名士を崇拜したり主義屋に運動を一任して置く時代は過ぎ去つた筈だ。

社會主義は主義屋や學者の專有物ではないのだ。机上の議論は今や街頭の運動となり主義屋の手より民衆へと迫りつゝある今日閥を作りて運動を阻害する者あるなれば名士であろうと先輩であらうと我々は斷乎して遠慮なく革命運動の圏外に放り出して了なければならぬ。然し、インテリゲンチャを決して排斥する者ではない

我々無産青年はあらゆるものに媚びず、迷はず、我等の進むべき道を凝視し邁進しなければならぬ。我々は名士の下に結合するのでもなく、學者の下に集まるものでもない。

我々の結合すべきは眞の〇〇的〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇。

「萬國の勞働者よ團結せよ」のマルクス、エンゲルスの言葉は實に無産階級解放の金言である個人的の感情に執らわれず、大同團結して無産階級階放の爲め奮鬪せられん事を切に望む。

同志の死を悼む。

冷めたき鐵の如き理性の持主であり、火の如き熱情の所有者にして肺患の身を持つて善く無産階級解放の陣頭に起つて死するまで、奮鬪せられた同志盛山正道君の死を衷心より惜む。

（廣島市——吉川長太郎）

和歌山縣

總ては力だ

我和歌山には同志は未だ百五十人餘りよりない。然し和歌山の同志は唯單に『進め』を讀んで居るだけでない事を一言いつて置きたい。勞働運動に農民運動に其人の立場により進む路こそ異なれ何時も階級戰の第一戰で戰ふてゐる事を一言いつておきたい過日來より和歌山に起りし勞資戰和紡、花畑、糾陽、關木、和織北村の各爭議に於て常に第一線に立ちて戰つたのも我か同志で

あつたのだ。其れと今一つ云つておきたいのはブルの手先が愈々露骨になつてたといふ事實だ——。

北村製材の兄弟等は此の横暴なる官權の壓迫よつて慘敗したのだ。決して同志が意氣地なかつたからではないのだ——。横暴なる官權の壓迫には我同志は今はまだ何とも出來ないのだまだ力が足りないのだから。

然し其の間には何とかなるだらう。否必ずもつと／＼力強くすると同志がいつてゐる。そして戰つてゐる。（和歌山支局－林重雄）

朝鮮

迫害に潜入して

進水に無產青年會が半年前に無產階級解放を目標として誕生して運動に熱中して來ました。當地の警察が理由も出來ない不充分なる調査で無產青年會は其の會員達が共產主義と云ふ危險思想を宣傳するから解散するとした。此の解散命令は其會の形式だけは解散であるが眞さうの精神は、什うしても解散する事が出來ないで、其の會員共は尚更一層元氣を出して主義の爲に前より熱心に又新進青年同盟を組織した上警察の禁止、解放と壓迫は民衆の心理を動搖するから目醒めた人には秘密に主義とか危險思想を宣傳して居るから幾ら禁止解散をしても必然の法則はどうする事も出來ないのである。

進水と會復、この地方では露服を着た人が澤山居る警察が神經過敏で露と云へば皆赤化だと思つて露服を着るなら主義宣傳者と認めかるら露服は着るを禁止すると此の樣な無理な野蠻的な禁止はナントも云ふ事が出來ない。（朝鮮慶南——姜大洪）

兵庫縣

ブル王國地の無產青年

阪神を思へばブル王國の榮輝地を夢みさせ、且つ文化の進歩したかと思はしめるのだ。然らば進歩とは何か。資本階級的色眼鏡を以て、觀察すれば、自我的部分的に好都合なる人のより多く排へると云ふ事と變りはないのだ。換言せば自我的ブルレドを忘れ、資本階級の提灯持ちの多い事なのだ。それが全的內容でないと假定しても多數的內容を保持してゐる事は否定的には出られない幕だ。それは現社會資本主義の制度だ。無產階級の無自覺に突入する事なのだ。部分的合理的なのだ部分的倫理を構成してゐるのだ。

阪神間の無產者と同じ轍を踏んでゐるのだ。それが無產者青年に於てそれが大衆的なんだ。換言すれば、より多く釣れる事なのだ。故に日米問題が起れば米國膺懲せよ。人種差別に對してそりや演說會を開けビラ撒きだ。路傍演說だ。山林事業を官製青年會が起せばやれ召集だ。演習があればやれなんだかとか云つて一日の給料を捨てブルの爲に働くのだ。無產青年がブルの爲に働いてゐる內にブル青年は娘の尻を追ひまわして學校で搾取術を習つてゐるのだ。おゝ無產青年よ自我を忘る勿れ。今や資本階級に胡麿化される時代ではないのだ。それも當然かも知れん。合理的全的價値かも知れん。而し。自覺的意志のない發動が何になるのだ。機械的發動體でないのだ。煙滅だ資本階級の手先になつてゐる阪神青年團は無產者官僚青年團だ。グルレド的階級は俺等と變りはないのだ。現社會に對する洞察力の缺陥で、社會的關係の無自覺、階級的無意識、によつての行爲だ。しかし今や資本主義の解體的傾向、不生產的、部分的、非倫的、不正義的だ。來るべき無產階級の運動の貫徹期は如何。必然的要求に依つて封建社會は〇〇我阪神ブル王國に無產者青年の無自覺侵入自覺必然期は近づいてゐるのだ。機會の到來期だ。おゝ無產青年の手になる無產解放運動の階級的グルレドに立脚して高く／＼狼煙の揭ぐる日は何日ぞ！（沿線住吉－松本謙造）

青森縣

起てる【鄕土運動】

青森市の鄕土運動社では今度『進め』第二年第七號から號外として『鄕土運動』を出した。

これは。社會運動の非常に困難な青森縣に在つて三年來無產階級運動に奮鬪して來た私の親友大澤久明君を中心としての同志數名の努力の結晶である。私にも五部送つて來たので深い懷かしさを以て讀んだ。

これは夙に出づべくして出なかつたものである。從來大澤君等は、何等言論の發表機關を有たなかつたことは、直接間接に運動上にどれだけ齒がゆく殘念な損な立場に在つたか知れない尤もこれまでに、文藝病色彩に隱れた雜誌を二度はど出したには出したが、經濟の不如意から創刊號を出した切り駄目になつたり、二三號で出せなくなくたりした。それが今度『進め』社の好意に依つてその號外として獨立の形態を備へたものを出す

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

ここが出來たことは、大變心强いことであつて、大澤君達の如何に勇氣づいたことであるかが思ひやられる。

何しろ地方と云へば、官憲や軍閥や所謂『知名のお歷々』が跋扈して權威を振ひ、官製青年團か頑張つてる。中にも青森などは、政治的には長いこと政友會の萬能地盤であり、今年の政變に際して頭を揃へて政友本黨に馳せ參じ、自由思想的代議士は僅かに一二名を出したに過ぎないやうな狀態であり、經濟的には、商工業が近年著しく發展するに從ひ、資本主義が漸く勢ひを張り、歷史的には、北海道との關門に、重要の地位を占め、短年月の間に長足の都會的生長を遂け、益々資本主義的都會と申して申し分無き情勢と成りつゝある。而して思想的には、ブルジョア敎化を受けたプチブルジョア青年たるインテリゲンツィアが、その有利なる立場を利用して活動してる一般的には相當の啓蒙運動を要する有樣であるから、一部の先覺者たる青年等の無産階級運動は非常に大なる障碍を前にして戰はねばならない。更に恐ろしく〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇せねばならぬ。これ等の渦中に在つて、大澤君等健實なる同志諸君が勇敢に戰つてゐることを厚く感謝したい。

勿論鄕土運動は一般無産階級運動と協力して無自覺なる地方青年をプロレタリア敎化に依つて導びき組織を作ることが目前の肝要なる使命である。私は鄕土運動者の同志諸君の運動に期待と希望を多分に有することを告白し、諸君を信じて疑はざる者である。

愚辯を弄して甚だ濟まない次第だが、曾て共に運動せる大澤君の豚友が『鄕土運動』の發刊を見て欣びの餘りペンを採つたことを諒として欲しい(青森―山田積重)

愛媛縣

私有地の無暴

住友別子銅山及其附屬鑛業所へ宣傳に行くと『此處は住友の土地だから卽時たち退いてくれ』と云つて追放されます、今まで此處へ來てこれで追放された人は數知れない。

なるほど土地は住友の土地である、けれ共其中には法律上獨立の人格者が住んでゐるのであります。其居住者は法に依つて許されたる限りの自由を持ち、そして門戸を解放してゐるはづであります。訪問する事も自由であり、訪問を受くる事も、住友に依つて何等さへぎられる理由は絕對に無いと思ひます。

專門家諸氏のアドバイスを御願ひ致します。(林田哲雄)

高知縣

魔術師

魔術がいつ迄も醒めなかつたら彼は魔術師に胸三寸の儘に夢幻の影を追つて死んでいつたであらうが、遂にさむ可き秋はくる。

海南 別天地に深き眠りを續けてゐた人々も怎うやらもうブルのいゝ加減の出鱈目な宣傳には愛俐が盡きてオイソレとは乘らなくなつたらしいたつた一つの原稿を振り廻し乍し地主小作の協調とやらを說く農會技師は御苦勞千萬なだが旣に事實の矛盾は什うする事も出來ない、よく〳〵犬振發揮し言を構へて社會主義者等をやれリーダーシップだの爭議ブローカーだと惡しざまに罵しりて『小作人は立派な企業家だ都會の勞働者等と混同されてはならぬ』と言ふが而し同じく搾取されると言ふ此の事實は什う辯護しやうもない、夏になると田舍の小學校では校友會が催されるが其の牛耳をとる者は平素ブル藥のきいてゐる學生等だそして×××氏と云ふやうな御用講演の走狗や御用講談をつとめる奴をきまつて引つ張つてきて無智な人達の心をそゝるやうに軍國資本主義を謳調する學生達とてもその通りでテーブルスピームとやらでは揃いも揃つてブルの提灯を持つのが例であつたところが今年は(これは 氏にも言つてあつた事だが)その足許から素的な鳥が飛び出したものだ無智に時間を潰して遊學とかをしてゐる學生は何を學習しつゝあるかしらぬが汗と血を絞つての勞働の中で僅かに修めて淺い智識では一人の青年がほんとに農村青年として心よりの叫び叛逆の聲を上げて彼等に再び言ふ所なからしめてくれたのは嬉しかつた。かうして農村の人達は次第に目覺めてゆくのだ一時盛であつた反動團體は影を潛めて若き人々は何物かを摑まうとするおゝ此の時である！我等の運動はより組織的により深く民衆の中に喰ひ入りて魔術師の影を無産者の中から追つ拂ひ出さねばならぬ私は先づ無産青年團結せよと叫ぶ前に亂れ勝ちな階級戰の前衞をより固く團結せよと叫ぶものである。

(高知―竹中鑑)

島根縣

軍國主義宣傳に對し

かの米國の排日問題からにはかに擡頭して來た、〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇。

僕たちもその名譽の帝國在鄕軍人の一人で數日間の軍事敎育とかをやらされた譯だから少しく夫について書いて見ようと思ふ。

其の〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇敎ね込まれる。〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一つはその思想を支持する物理力であつて、統制ある訓練されたる戰鬪力ある軍隊の編成が何時でも成し得る準備教育である
前者は□□□を基本精神として、國防の必要、國威の宣揚を——排他的な——力說し、外國の侵略、弱小民族併合の思想が注入される、後者は兵營内で行はれると同じく所謂軍紀を錬り、いかにして敵を撃つかと云ふ即ち戰鬪の方法手段が教わ込まれる。そこで我等プロレタリアートは如何に處すべきか、其の軍事教育に對して如何に行動すべきかである。
私は必ずしも其の全部を捨つべきものと思はぬ。其の軍國主義思想は勿論排撃し反軍國主義の思想を宣明すべきであるが、その訓練されたる戰鬪力ある軍隊は受け入れるべきであらう、それは〇〇〇る、只未だ醒めざるが故に〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇の行詰りからして生存條件の窮迫は必然的に彼ら青年達を醒めしめずにはをかないであらう、遠からずして鮮明なる階級意識をも〇〇、併し乍ら其の歴史的必然の使命を使命たらしむべく言ひかへれば階級をもたしめ〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇者の教化にまつ事大である、更に言ふならば前衛を以つて任ずるものの教化如何がこの滔々たる大衆より選抜されたる兵士をして敵陣を衛らしむるか味方を衛らしむるかは決するのである地方に潜伏する者はしつかりと此の大衆教化の使命を果さなくてはならぬ重大なる使命がある然らばそうした問題に當面して如何にして教化の目的を果たすか。

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇に全然別個の反軍國主義の團體〇〇もなく後者の手段であらうと思ふ。只理論的潔癖を固持して他の兵士と行動を共にせなかつたならば——軍事教育の場合等——最初に於て兵士たちに疑問を抱かしむる、そして彼らを暴虐や搾取や支配の笞から解放する社會主義をして近づき難きものとなしついには反運動宣傳に乗ぜられて自身の使命を沒却するに至る場合がある、何時の世も民衆は常に迷羊の群である〇〇〇である。

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇（山根積）

東京

東京が運動の中心であつたのは昔のことである會ては、地方から、中央へ中央へと有爲の闘士が競つて集流したものである所が地震後の東京の社會運動は全く寂寥たるものである。曉民會とか、ＭＬ會等といふ思想團體が盛んに活躍したのも今は遠い夢となつた。

これに引き代ね地方の思想的進歩は實に素晴らしい勢である。苦しい體驗と思索とが、もはや地方青年を安閑とはしてはおかないのだ。即ち會ての傾向とは正反對に、赤渦は、地方へ地方へと動いてゐるのである。僕はこの傾向の中から、一つの喜ぶべき暗示を受ける。それは、中央に於ける一つ一つの思想團體が、拔けがけの手柄を爭ふ様な、運動方法の否定である。即ちそれは、日本の社會運動もいよ〱階級的に結成さるべき時期が到來したことの暗示である。

僕は此の意味に於て、むしろ東京の今日の寂寥を喜びとしたいと思ふものである。（東京支局―山田生）

留置場

カズヨシ

〇〇〇〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇〇〇
囚はれの身は悲しかな一杯の
水も
自由に飲まれはせぬな。

「監食位食へない様なら運動を
止めよ」といふ
同志の言葉。

「俺にだつて
監食位食へるぞ」と
淋しく笑みて箱飯を食ふ。

箱飯を
一粒あまさずたひらげて
大の字に寢る晝の監房。

南京蟲と
暑さの爲に寢られざる
監房の夜の犬の遠ぼえ。

南京蟲を
スリ潰したる血の痕の
淡く殘れる留置場の壁。

留置場の壁にもたれて
戀人のまぼろしを見る
會ひたき爲か。

雜役に出る
〇〇〇〇い手を
一度握つて見度いと思ふ。

放たれし小鳥の如く
警察の門を出でたり。
朝陽輝く。

一九二四・八・一一

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

進め社より

笑止！

特權階級の横暴を痛感し憎惡する者のみ、よく社會運動の精神を理解し得べし。

討閥の運動も亦此の如し。たゞ心より閥を憎む者のみはよく此の切實の叫びを解せむ。然るに彼の社會運動中の特權者流、笑止しや秩序の名に藉りて討閥を云爲す。何ぞその口吻のブルジョアの徒さ相似たる。（福田）

回顧断片

▲時は流れる。早くも大正大地震の一周年は來た。歴史的必然の軌道を走るべく、吾々は全社會組織の變革を要求する。社會を組織するものは民衆である。

▲少数一部の頭腦の中にのみ安住して居た社會主義觀念が、あの自然的大震災に際して、民衆の指導的勢力となり得なかつたのは當然であつた。

▲○○○

▲この偉大なる民衆の力が反動勢力によつて、混亂、狂奔せしめらるゝ時、そこに生づる全ての事實は、悲慘中の悲慘事である。平時に於てさへ吾等は常にこの悲慘を見せつけられてゐる。

▲要するに今までの社會主義は民衆の外にあつたのだ。勞働組合も思想團体も震災當時現はれた、民衆の低氣壓を防ぐに充分なる強固さを缺いでゐた。

▲今震災一周年を迎ふるに當り吾々は深く、此の点に考慮を及ぼさなばならぬ。事實に於てわが社會運動も勞働運動も、全体さしての有機的聯絡を有たない。斯くては地域的にもなるわが日本は歴史的必然の世界的水準から遠く遅れる事になる。

▲吾々がこの日本に住んでゐる限り、到底かゝる運動に甘んずることは出來ないのだ。（茂陸）

力は組織より生る

世界的の行きづまり。○○○。其の爲には組織されたる力を持たなくてはならぬ。然るに何んぞや主義の爲には生命を何時でもなげ出さなくてはならぬ筈の社會運動家の内に賣名や權力爭いの爲に常に同志打をやつたり正義心に燃ゆる若い同志を失望させ又は惰落させて我等の組織を妨害して居るとは。何んたる苦々しい事だ。此等の徒輩は宜しく社會運動をやめて高利貸にでもなれ。我等は利己心から社會運動をして居るのではないのだから。

同志よ我等は闘はねばならぬ。○○○。（田島）

監獄が年々膨脹する

◆長い間日照が續いて何もかも皆焼盡くされてしまふかの樣に思はれた。田舍には旱魃が――折角植付られた稻も眞白の田の中に去年の大ナマズの子でも跳たかの樣にヒン／＼ボカ／＼割れ出して、百姓の大不景氣が到來して都會の不景氣と手に手を取つて心中でも。果して天は自ら助くる者を助けたか？

◆併し都會の不景氣も、田舍の不景氣も未だ／＼續くだらう。斯うしてブル社會が社會の全員を養ふ事が出來なくなればなる程吾々には尊き体驗が得られる。假令彼等の手段が巧妙を極めても、それは吾々により以上の巧妙なる手段を教へて呉れる者である。

◆彼等は常に寵術教育を以て、吾々の勢力を殺がうとする。けれ共それが完全にやれないのか？全國の監獄の年と共に膨脹しつゝあるのに比べて、小學校の貧弱さを見よ、黒板は割れる戸はおちる――ブル社會には小學校よりも、監獄や軍隊の方が必要缺くべからざるものださうだ？（上西）

断想

世に言ふ義理とか人情とかいふことは、六ヶ敷しい事であり、不利益な事が分つて來た。兎に角、世渡りするには嘘八百をならべたり、オベッカ使つたり、即ち色の黒い顔が厚化粧して、妾や天晴美人だと人を誤魔化すやうに、狡猾に世渡りする者が結局よい立場にあることが明瞭に、ハツキリ分つた。然し、これも誠實人ならばこれを犯すとも恥ぢないのである。いやしくも身は社會主義運動に投じ、不合理なる現在社會制度を、改革さる者には犯す事が出來得ない。社會主義運動は嚴粛な眞理である。眞摯に虚僞なく遂行せねばならない。僕がまだ田舍に居る時分だつた。堺利彦さいふ人は、献身的なそうして偉大な社會運動家だと思つて、人並以上の尊敬を拂つてゐたものだ。が、一度バケの化をハがれ、惡辣漢であり、社會運動を喰ひ物にする男なるを知つた以上、厚化粧が落ちた醜婦も同樣呆然として物が言へない。社會主義運動を阻害し、あやまるものがあれば、二度立つ事の出來ないまで膺懲を加へるべしである。（岡本）

守銭奴根生を撲滅せよ

彼の旱魃の爲めカラ／＼にヒカラびた此の涸花の地にも、如何やら秋は訪れて來た樣だ。御影で寒く涼しい樣な風が朝な夕なに侵入して呉れるので、近頃の我々の頭の働きは、自分乍ら馬鹿に感心する程達者なものだ。直ぐにヨッて集つて物騒な協議をオッ始める。

それは誰が見ても、一も二も無く感心する樣な事丈だ。

プロ社會建設の爲め、○○○。然し乍ら兄弟。我々は先づ彼奴等の、○○○○○○○○○、○○○○我々の此の神聖なる運動の中で社會主義名士の看板を賣つて、私かに、私欲を逐げようとする、狸連中から着手したい。そして守錢奴根生を、運動から一掃しようぢやないか。先輩が何だ。名士が何だ。命が何だ。今の我々には斯うした奴等を撲滅膺懲することが、一つの運動だと信ずるのだ。そして思想は勿論、友情に於いても團結して進もう。それでこそ、同志といふ言葉が使へるのだ。如何せ一度は死ぬ身じや無いか。幸いに進めを手にする所の數多の親愛なる兄弟諸君よ、時節柄今後益々健在に奮闘努力せられんことを切望する。大阪へ來たら寄つて呉れ玉へ。（鈴木）

信州の山から

拜啓

大阪「進め」の讀者諸君。僕は、十五日から、信州の山の中へ來てゐます。こゝは、山崎ハクシャクの生れ故郷の諏訪さいふ所です。見渡す限りの、連山。その山おろしの風が、バカに涼しいので、まるで東京の十月の氣候です。君等は、今頃は、相撲や盆アレーで盛んに腕力を競つて居ることさ思ふ。その中、大いに腕前を揮ふ時節も當來することだらう。盆踊りを見物した。一年に一ぺん、牢獄のやうな工場から放たれた女工さん達が踊るんです。搾取の手は、こんな山の上にまで伸びてゐるのですね。

この山奥にも「進め」が讀まれてゐることや、同志の深切が心から嬉しかつた。

一晩、座談會をやりました。この村の人達は、一ぱんに主義に理解があるやうです。座談會の夜なども、家の外にもずいぶん聽衆が集つてゐたさいふ話だ。

色々な土産話は、大阪へ行つてから。健闘を祈る。（岩澤）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

貴院改革問題と

第二憲政擁護運動

久保芳朗

政治は勢だと云ふ言葉は特に立憲政治に於て眞實である。政黨政治家が、其の言動の背後に民衆の力を失ひ、輿論の激流から押し流されたならば、尠くも彼の政治的生命は光に面するものとは言へない。

そこで現實政治家の等しく腐心するところは、如何にして我黨(自己)に有利な輿論を喚起す可きかといふことである。

政治家笛吹けども、民衆踊らずとは、蓋し今日の政治家にとつて最大の悲哀であらう。が又之に反して、よく笛を吹きよく民衆を踊らすものは、爲めに憲政の神となり、普選の神となつて或は一代の宿志空しからず終に大宰相の印授をにぎることにもなる。

賢明な政治家は決して、下手に政治哲學上の學理などから自己の行動や態度に動機づけようとはしない。

若し彼等の行動に一貫した大心理的根據があるならば、巧に輿論の渦中に投じ或は煽動し或は抑制して自己の好む所に進まんとする日和見的心理である。

それは何にも政治界に限つたことではない。社會運動者の間でも同じ傾向は見られる。

時代のジャーナリズムに投じて或ひはクロポトキンに或はマルクスに賣文の業をすりへらしある時は經濟運動の萬能を强張してあつぱれ一方の驍將となり又ある時は、政治運動の鬪將にくらがへして、圓轉滑脱巧に新傾向の陣頭に立つて賣名に之れ腐心せる賢明な態度が、今日堺山川氏をして社會主義の巨頭たらしめ、太陽の東天に没する日もあらば、彼等の大宰相たること又必ずしも不可能ならざるの勢を示してゐるではないか、

寧ろ革命を玩弄する賣名的社會主義者の行動よりも、政治の現實の上に徹底して政權と金權をあさる現實政治家の運動の方が、同じ食言や僭瞞でも、憲政の神自身が馬を陣頭に進めるだけ興味がある。

板垣退助等の自由民權運動はもう前世紀の話だが、民意代表の府が出來てからも、幾度此の輿論の怒濤が議會を中心に天下を席卷したか知れない。

そして其の度に犬養を憲政の神と崇め、尾崎を普選の神に祭り上げた同じ天下の輿論が今日又護憲派の頭目として加藤に宰相の印授を與へ、政友會の兇惡を容し憲政會十年の苦節に酬へたのである。

政治はやつぱり勢だ、天下の輿論に乘ずるもの丶みが今後の政界に勝利者となる

彼等は今次の政戰に命名して第二憲政擁護運動といふ。

確かに我が憲政は上下兩院の絶對勢力たる研究會と政友會の情意投合によりて、全く動きのとれぬ暗礁に乘り上げてゐた。

ところが原が死んで俄かに中心人物を失つた政友會は、世間の豫想通りお家騷動を始めた、

然るに此の憲政の裏切者政友會の動搖を目前にして憲政會革新俱樂部の微力は終りに何事をもなす能はぬ狀態にあつた。

そこで寺内沒落以來、成り上りの平民原敬に頑と封鎖されて政權に近寄る可くもなかつた貴族院を根城とする官僚、軍閥の徒は此の機に乘じてまんまと政界の第一線に復活したのである

加藤、山本、淸浦に支配された日本の政治は、文字通り憲政擁護の叫びに値する危機に立つてゐたと云つてよい。

素より憲政擁護の聲は決して新しい叫びではないある意味では我が憲政の狀態は慢性的に此の叫びを必要とする程さように今日の護憲軍の將士自身によつて蹂躙されてゐたのである。

がそれにしても一九二四年といふ新時代に純貴族院内閣の出現は、文明國の體面からも容すべからざる憲政の逆轉であり、護憲運動をして天下平民の輿論たらしむるには充分の理由があつたのである。

だが大正の民衆はさすがに慶應明治の民衆ではない。

尠くとも輿論を存在する中心思想は最早單なる憲政常道論や黨政治論に滿足して、護憲三派に大見榮を切らしてゐるのではない。

政界の表裏に出沒飛躍する貴族を挑擊するは勿論の事、憲政會と言はず、政友會と言はず、苟くも今日の政黨者流に民衆の勝利を公言せしむるを欲せぬであらう、

何んとなれば、彼等は貴族内閣を攻擊するに當つて特權階級打破と言へ、又自ら任じて民衆の代表者を以てした。

が民衆は、明らかに彼等自らがよりはるかに强大なる特權階級たることを知つてゐるからである。

岩崎黨や三井黨は特權貴族階級を攻擊する資格はあらうか又同時に彼等の呼ぶ民衆によつて敵視さるる宿命をもつてゐる。

彼等は衆議院否政黨と民衆の一致協力を口にするだらう。けれども衆議院は近々三百萬人足らずの小數の意思に據つて立ち而も金權の意の如く支配されてゐることは、護憲派勝利の今日と雖も恐らく美れいな口はきけない筈である。

眞に民衆の叫ばんとする護憲とは、立憲制度自體の改革を目的とするものに外ならない。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

即ち第一に曰く普通選擧の即行、第二に曰く、貴院の根本改革がそれである。

さすがに護憲三派は此の國民的輿論をしつかり摑んでゐるだけに強力であるが、果して此の二大目的が現內閣に期待して達成されるかどうか。

先づ第一の普通選擧の問題に付いては殆ど何人も疑はぬ如うに現內閣に於て實行されるであらう。

然らば貴院の改革問題はと見れば、これは決して樂觀を許さない。

加藤總理の施政演說に見て、又與黨三派が、率いて建議案を最終の日程にのぼせてお茶をにごせる態度に見て、政友本黨の言ひ分を借れば、徒らに聲のみ大にしてその行はんとする所何んぞ豆の如く小なるやの憾がある。

而も政府はこの豆の如く小なる組織變更の限度の改革に於ても與黨三派の要望するが如く之れに善處するの勇氣あるや否やも一の疑問である。

何となれば、貴族院改革の問題は、其の根本に觸れば憲法の改正を必要し、斯かに豆の如き程度に於ても貴族院自ら協賛を必要とするが爲、衆議院が其する所の選擧法を自ら改正するが如く簡單に行かない實際政治上の難問題であるからである。

若しなし能ふならば、貴院內部の改革派と協力して貴院の自發的形式の下に組織に關する一部の改正を行ひ得れば最上と見ることが妥當であらう。

けれども互選規則の改正勅選議員任期の制限、多額納稅議員の廢止等の枝葉末節の改革によつて今日世人の期待するが如く貴族院の流弊を除去することが出來るかどうか。

貴族院が其の包藏するところの政治的實勢力をたのんでや、もすれば衆議院の院議を輕んじ實際政治の表面に狂奔せんとする近來の橫暴は要するに貴族院が憲法上に衆議院と全く對等の權限を有することに基因するのであつて、互選規則の改正の如きは貴院の一集團勢力を分裂せしめ得るや否やさい疑はれる枝葉の問題に過ぎないのである。

そこで民論の要求は、必然貴院の權限の縮少とする爲に憲法の改正も又辭せぬことになるであらう。

而もかくの如きは今日之をなし能はざる事情にあるのみならず、其の前程として衆議院自體の改造を行つて、眞に民衆勢力の代表たる本質を具備せしむることを必要するの前提とする。

以上の諸事情から當問題の解決を現內閣に期待するは殆ど望みなきことであり、恐らくは今後の政界に於ける最も中心的な改革運動の主題とし殘されるものと考へられる。

若し貴族院內部の頑迷なる保守者流が、貴族院令の鐵壁に據り得意の憲法論をふりかざして民論に對抗するが如きことあらばさだめし面白いことになるであらう。

吾人の興味は改革的民論の激昂と貴院內部の硬化にかゝつてゐる。

かくして必ずや近き將來に於いて、貴院改革を中心に第三の憲政擁護運動が起るだらう。

そして新興の憲政の神々が、最後の貴族征伐に笛を吹き拍子木を鳴らして、民衆を踊らすだらう。

而も此の戰ひが、封建貴族には最後のふんばり所であり、新興の金權階級には最後の突擊であるだけに、或は不心得者をよろこばせるような混亂を引き起さぬとも限りならぬ。

兎に角、貴院改革問題は、問題の性質上、普通選擧に比較してより根本的でありより困難な實際政治問題であつて今後の政治家が民衆煽動の唯一の好題目である。

ある意味では現內閣にとつても又我國に今後の憲政にとつても禍機は此の問題を中心に動き出さぬとも限りならない。

吾人は今更貴院改革に付いての具體的考慮を發すことを欲しない、吾人にとつては、貴族の存在そのものが否定せらるべきであるからである。

吾等の望むところは貴族院の廢止を結果する程に此の問題の惡化せんことである。

それはよりはるかに天下民衆の權利を伸張する所以であるからだ。

吾等の望むところは貴族院の大いに硬化せんことである。

なぜならば、民論は爲により革命化しかくて貴族は自滅するであらうからだ。

若し新進の憲政の神々が貴族廢止の笛吹かば、吾人又拍子木を打つて民衆と共に踊ることを躊躇せんであらう呵々

（八月十三日）

白シャツの人々に

智識階級の人々よ
俺達に理解のある人々よ
所謂同情のある人々よ
俺達はもう君達の門を叩かない。
君達は白いカラーを捨てゝ
來給へ
それなら快よく握手しよう。

プロ權威の創造

今のところ、進化學論を否定する者はあるまいと思ふ。
あらゆる權威は進化の反映である。
支柱であり、影法師に過ぎないのだ。
資本主義漸く崩れんとする秋
そのコケ威しの金ピカ〇〇〇〇
逆する事は古今の大法則である
亦一貫した哲理である。
俺達は燒きの廻つたブルの權威を叩き倒す閑を持たない。
只、一直線に而も根強い俺達プロの權威を創造するまでだ。
その前に、その進む處に何物をもないのだ。
あゝ、鐵血の權威。正義の焰

印刷勞働　牧野一郎

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「排米講演」を聽きて

李平權

世界の大資本國たる阿米利加は日本排斥の聲を高く上げた。

其の主要點はなにか？日本勞働者、日本移民排斥である。成る程大發展を遂げた資本主義の矛盾行動であり、資本主義の赤裸々な發揮である。世界の搾取國である歐米諸強諸國が今日まで何を言つて居るか平和だ人道だ正義だと云つても到底夢想に過ぎない。被搾取國である有色人國が如何に一時的にも征服されてゐるとは云へ之を覺らざるを得ない。今日本では何うか。體面論や米貨排斥を叫びつゝある目先の感情の滿足の爲の暴擧は何等の目的を遂するものでない。それに排米講演は殖民地の到る所で大盛況に熱辯を吐いて居るが。私が聽いた事を一寸書いて見よう。

「朝鮮は日本主安地である。日本の頭部である、その頭部であるところの朝鮮に他國で大眼をして見て居る、萬一他國で朝鮮に手を延ばしたら日本の頭上にピストルを置かれたのと同樣其の豫防として、朝鮮師團設置云々」

日本一國の治安の爲には日鮮併合をし斯の樣な隸屬狀態が日鮮民族擁護と云ふ美妙な假面の下に資本主義以前の社會狀態である農業を基礎とする朝鮮を機械工業則ち帝國主義的資本主義の急激なる襲來で從來の組織を破壞してしまつた其處で朝鮮は日本帝國主義的資本主義に依り○○。おまけに言葉も言はれないように針で口を縫つてしまつたからだ。其上尙も富國の虫が血を吸つて吸つて吸ひあけてしまつたからだ。肉迄切り取られて彼等にスキヤキにされて食はれおるからだ。此れでもまだ不足らしい朝鮮△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△、梅毒漫性者の顏に白粉を付けた譯だ。生命が危期にある我等にはそんな白粉は用がない、炎暑であるから天幕を張つて冥れて誰れにも見られない内に根(生命)迄か？過ぎたるは及ばず止めて置くべしである。

△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△。我等無產階級には其んなものを要求しない。阿米利加の搾取國が日本被搾取を排斥したのは善い時と思ふのだ。むしろ遲れたのだ。排日問題が起るや日本では人道正義を叫ばれる樣になつた。奮ふ國と奮はれる國との味が判つて來た樣だ。が又生命迄危期に逹しないせいかしら、一時の快の爲めに暴擧を企てる朝鮮×××××、××等は未だ早いむしろ用がないのだ。局部的一時の決心では目的を達し得ないのだ。排日の問題には人道、正義を高唱し、朝鮮、臺灣、琉球に政治的壓迫、經濟的搾取は果して人道、正義か。先づ自己を反省し目前の火玉を消さなければならない。△△△△△△△△△ム△△△△。其の上人道、正義も、平和も世界的に振り叫ばなければ眞の目的は達し得ないのだ。他國からの排日には人道、正義を叫び反抗の勇氣を持ち、自國が△△△△△△△△△△△△ム△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△「人道」「正義」である。譯の判らない事が人道と正義に假裝する。良心は質屋流れか、解放の爲めに、枯渇された△△△△△△△△△△△△△△。其の上世界の大資本國である搾取國である歐米諸國を如何にするか。被搾取國である世界諸國の大同團結にあるのだ。大同團結以外には何物もない。大資本家が△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△。外何物もない、支配國か被支配國の壓迫搾取を脫し、解放を得るには、民族大同團結にあるのだ世界の大資本國たる米國の日本排斥は日本一ケの問題でない。世界被搾取國全般の問題だ。日本人一人では如何に悲憤慷慨しても殘念ながら駄目である。歐米諸國卽ち搾取國の打壞は全國無產階級大同團結にあるのだ。局部的問題としての目先の感情の滿足の爲に一時の快を貪る暴擧や軍國資本主義的な事では到底駄目である。向上する餘地がない其れよりも先づ自分の位地を顧み階級的意識を自覺して世界的運動にしなければならない階級的意識に自覺した無產階級に必死の力を以て競ひ集まらなければならぬ。

討閥

無代進呈
要稅二錢

「進め」を借りて、廣告を申し上げる。討閥運動の機關誌「討閥」は注文殺到して、一ヶ月ならずして一萬部が早や殘り少なくなつたといふ盛況です。そこで第二版を、目下印刷中、いくらでも作る考へですから、ドシ〳〵申し込んで與れ玉へ。

但し今の所では雜誌でなく、進め型の四頁ものですから、そのおつもりで。

やがて、少々大きな月刊になる考へでは居ります。「討閥」を讀んだち、成るべく嚴正な御意見をハガキにでも書いて送つて下さい。

東京市赤坂區檜坂町四
討閥社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

二つの事實に直面して

大路龍一郎

白耳義に於ける一つの長き物語りである勞働者の虐殺……狂暴なる軍國主義の銃劍によつて集會と示威運動と同盟罷業とは蹂躙された。

この暴逆なる軍國主義は、白耳義の無產青年をして鬪爭的無產青年運動を起さしめた。

そして其れは唯白耳義に止まらずして和蘭・伊太利・瑞典・諾威・匈牙利・佛蘭西と勃起した。然もそれ等の無產青年團體の向ふ方向は、白耳義に於ける「青年衛兵」と相一致した。

これは國際無產青年運動の歷史の一頁に印され、而して吾々無產青年の脳裡に深く刻こまれた事實である。

然しながらこの事實は、遠く一九四八年以前の過去であつて、それ以來百數十年の長き歲月を曲りくねつて無產青年運動の歷史は醸されて來た。そして其の間青年運動の第一義的標榜として高く揭げられて來たものは、反軍國主義運動である。然るにこの反軍國主義運動を第一義的の標榜として押進めて來た處の無產青年運動の發達過程に於ける世界の資本主義はその運動を押除けて著しくより以上の發達を遂げ、而もその最終の階程である處の帝國主義の現在まで突進したのである。その間幾多の國際的戰爭を招致し、分けてもあの恐る可き一九一四年から一八年に亘る未曾有の帝國主義戰爭をまで招致したそして其の決果世界の武力的均等は破れ、內に世界の大帝國主義を夢見ながらも、最早再び起り能はざるを知つた世界の資本主義國家は來るべき最後の帝國主義戰爭に備ふ可き表面に平和を粧ひ內に在つて密かに、財閥と軍閥と官僚は相呼應して軍備擴張を爲さんと、經濟的擴張と相並行してその魔手を吾々無產階級の間に大膽に且つ堂々しく延ばしつゝある。だが然しあの世界帝國主義戰爭に依つて極度に勞働階級の生活條件は低下し、有產階級と無產階級との間に介在する處の溝渠は益々深くハッキリとして來たのである。この階級間の溝渠が深化して來ると共に世界の無產階級は一齊に資本家階級に對する階級戰の幕を切つて落したのである。一度國內にその資本主義の最後の願望に對する反動的運動が勃發するや醜くも周章狼狽してそれが防止に運動をあらゆる方法を以て起し始めた、中でも無產青年運動、即ち反軍國主義運動に對する反動は最極致に達してゐる。それは我日本のみでなくこの種の運動に對する壓迫は世界を通じて峻烈を極めて居ると云ふ事は今更云ふまでもないが、異に我日本に於ては、過去數千年來の因襲的觀念に依つて傳統的に釀成されて來た處の忠君愛國精神は、遂に現在の欺瞞的ブルジョア教育と相合致してその現はれとしての實例を揭げるなれば、近く東京の大震災當時に於ける在鄉軍人乃至官製青年團乃至現役軍人の敢て爲た行動に於ても尚且最近阪神地方に於ける電車從業員の罷業に對して、社會奉仕とか市民の爲とかの美名の下に隱れ罷業團員に對して市民の公敵呼ばはりをなし、罷業の切崩しを敢てした處の在鄉軍人、青年團學生等の行爲に依つて如實にそれを知る事が出來る。

そしてこれは最も大きな事實である。この事實を一方觀つてそれが何を物語つてゐるかを考へた時に、私はこう云ひたい。

それは取りも直さず○○○ろものであると云ひたい。

若しこの言葉が事實とするなれば、今吾々はこの○○○○○○○○○○○○○○○○○○○の出來ない事を考へなければならない、何故なれば如何に○○は必然的に少からざる勢力を有する事は當然であるからである。で先づ吾々は○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

震炎日記

印刷所からの歸りがけ、京濱電車の中で地震に會ふ。電車の窓から、向ふの土手の何某の大別莊が大樹ゆらぎ、黑塵舞ひ瓦とぶ痛快な光景に見されて、しばしは、地震やら何やら氣がつかず。ウカツ也。海岸を走り歸る。大方屋根瓦落ちて無殘福田狂二の家無事。進め社の屋根は、腦を露出し、少々壁ゆがむ。連中前の廣場に鍋釜を運び夜營の準備の眞最中。東京の方蒼空に、白き入道雲もくもくとひろがるを見る。火事だと、近所の人がいふ。强激震續け樣に來たる。社の二三人と、大森の山川さんの家へ見舞に行く。家はペシャンコにつぶされたが、山川氏夫妻は大元氣。ヨシズ張りの小屋を作り、山のやうな藏書の整理にいそがわし。書籍を大八車で水曜堂へ運ぶのだといふ。僕等も手傳ひ車の後おしをす。夕暮朝鮮人襲來の噂辻に充ち、人心洶々。二千人拔刀して來るを目擊したといふ男、息を切らして走りまわる。海嘯々々の聲入りまぢりて聞こゆ。家は大方、戸を閉し、女子供八景園へ避難す。とも角も、社の女、年寄達を立會川の福田の家へ立

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

て成すべきかゞ當面の問題として考へなければならない。

そしてこの二つの事實、東京の震災と大阪市電の爭議のそれを考へる時に少く共階級的に自覺したる無産青年は、徹底的にそれ等の事實を敢てなさしめた處の官僚と軍閥に抗議を申込まなければならない事を痛感すると同時に吾々は彼等資本家階級並に官僚と軍閥の欺瞞的教育に惑され、それに陶醉し無意識的にもしろ、無産階級青年としての自己の職分を投げ捨て階級を同じくし利害を同じくする勞働階級が現在の非人間的生活からより良き眞の人間としての生活へ到達せんが爲の鬪爭に對して反動的行爲を敢てする處の無自覺な青年諸君に對して徹底的に覺醒を促さなければならない。

そして今吾々がそれ等の行爲を敢てなさしめた官僚と軍閥に對して抗議を申込まなければならないと云ふ事を痛感した時に於て、吾々は一つの悲しむ可き事實を持つてゐる。それはそれ等に對する可き吾々の組織のない事である。政治的權力のない事である。此處に於て吾々無産青年獨自の最もハッキリした組織を作らなければならない事を　そして各無産階級の政黨を作らなければならない事を痛切に感ずる。然しながらその組織にしろ政治的權力にしろ斷じて恩惠的組織であつたり、政治的權力であつたりしてはならない事は云ふ迄もない。青年それ自體に依つて作られる處の組織でなくてはならないと同時に、政治的權力そのものも無産階級自體の生み出した政治權力でなくてはならない。

過去に於ける國際無産青年運動の歷史について見ても、總ての無産青年團體は悉く青年それ自體に依つて組織され、隨つて是れが政治的に、組織に、完全に獨立したものであつたと云ふ事を吾々は教へられた。

私は最近の二大事實に直面して吾々無産青年の組織の必要と無産階級の政治的權力獲得、即ち無産階級政黨の樹立を諸君に訴へるものである

農民組合の必要

湯原彦三

今や我國無産階級解放運動は都會より刻々と丁度秋の枯草に火を點じたる如く都會にありては勞働運動となり田舍に入つては農民運動となり農民の腦裡に浸潤しつゝあるのだ。觀よ昨年の土地返還地二萬町步に及び併して一萬町步以上の田地は荒廢に歸しつゝありと。此收穫凡そ二十八萬石(一反步二石三斗平均と見積り)此れを米價三十五圓と見積り約千萬圓近くの多大なる金額が國家の損失になりつゝあるのだ。

此傾向を政府當局及び一部特權階級地主及び資本家は如何に觀察して居るか。

凡そ人間が各々自覺し此が正當なる事だと思ふ時、絕大なる權力强大なる武力を以て是を壓迫すると雖も人間の思想は權力や武力で鎭定するものでない壓迫すればする程其の反動力が强く彼等をして益々辛辣なる思想を將た又行動を起さしむるである。

彼の强大なる露國のロマノフ帝國の滅亡は如何に我國にても最近大正七年の米騷動は如何に無智なりと云へ農民及び勞働者の思想は國家を左右すべき素質を有するのである。所謂禍は下よりと云ふのは口實ではない現在彼等地主は口々に云ふ『田地持つても引合はない』何處を取らへて引き合はないと云ふのだらうか?彼等は彼等地主階級の勝手に釣上げた評價に對して小作米を利潤として採算をなしつゝあるのだ。

昨年の勸銀の統計に依つても中田一反步六百圓近くの評價である。今假りに一反步二石四斗の收穫米ありとして米價三十圓と見積り七十二圓の收穫ありとするも、地主が全部取つて公課を拂へば一割の利潤しかならないのではないか。其中には小作人の勞働賃肥料代農具費も加入されて居るのだ。

此の高價なる評價たるや土地の經濟的價値に非ずして寧ろ社會的價値を彼等は尺度として居る。

或る一部の地主は土地開放小作人土地購入論を說く、此等地主の土地開放は社會奉仕の美名の影に土地賣逃げをなすもので丁度商人が社會奉仕の賣出しをするが如く田地と云ふ、他の會社の株や債劵の如く利潤のない殘品を賣逃げをなすものである

ち退かす。福田は、既に、體育協會の學生の一隊を引つれて、六郷川へ向ふ。鮮人襲來の實否を確めんがため也。〇〇〇〇〇〇、自警團に守られて通るを二三見る。胸痛む。夜に入り世間は戰爭のような騷ぎ。流言蜚語益々大きくなる。白鉢卷、拔刀の青年、暗い街に、目を血走らせて右往左往す。山と川との合言葉が、闇の中で殺氣を含んで聞こゆ。僕等も手拭で鉢卷きしながら、福田の家から進め社へ歸る。社の前に、近所の青年等、目を光らして立つ。彼等の一人、進み出で、竹槍を示す、血が、ベットリと切先を染、肉片附着したり。青年のいふを聞けば、今し方一人の男が進め社の塀を乘り越して中に入り、二階の硝子戶を破り槍を持ちだしたればそいつを一突に突いたのだと。その他めつた斬りに斬られ、品川署につれて行かれたと。多分、進め社の恨みのある奴か、或は朝鮮人ならむと彼等は語る。僕先づ、その男の人相を聞く。どうやら、社の竹下君らし。竹下君は先に、福田狂二の後をしたつて六郷川へ行つたとの僕等の推量なりしが、どうやら突かれた男といふが、その竹下らしい。青年等も初め

我國の耕地は現在經濟的價値以上に賣買せられて居る。何等社會的價値の必要を持たぬ小作人が此の經濟的價値を無視したる高價な土地を購入するのは大なる不利益である。況して借金して迄田地を（卽ち社會的價値を）求むるのは考へ物である。

併して大部分の小作人は土地を買ふ丈の餘力はないのだ。土地を購入する餘力が無いのみならず生活の安定だに得られない現狀である。

一生懸命に働いても引合はぬ小作人は算盤玉を彈くことを知らなかつたので其の儘過ぎて來たが敎育の普及とともに各々自覺しだん／＼賢くなり生產費調査をする樣になりいよ／＼引合はないことが明かになつて來た其れがため、耕地返還する者が續出する。實に國家の爲め寒心の至りである。今耕地返還をなせる地方の小作人の苦しい述懷を記して參考に供しよう。

小作骨折損の草臥儲けとは此の事を云ふのでせう、それも自作農ならまた算盤が立ちますが小作するなら工場勞働者になつた方がこれだけ悧巧か一人前の百性でも四反五畝の耕作は覺束ないから平均四反と見積つて一ケ年年收獲が十二石（一反步三石平均）內、年貢米五石六斗（一反步平均一石四斗）差引小作人實收が六石四斗で米價石三十五圓として二百二十四圓一ケ月十八圓餘肥料代其他農具の損料を差引くと空つぽになります云々（西伯郡內米子在）

今日の此の苦しい境遇より小作人を救ひ出すものは他の力を借りても駄目だ各自目醒めたる小作人が自己の力で作つた組合の威力があるのみだ。此方法より外に手段はない。それも小さな組合では結局地主に蹴殺しに逢ふだけで駄目である、然ればとて自暴自棄になつて地主に耕地を返したり鍬を賣つて商賣替へをしても小作人は少しも良くなるものではないのだ。

手を携へよ小作人全國の我等が友と共に併して精神的にも經濟的にも共に互助せよ。

丁度小さい蟻が大きい蟬を曳するが如く弱い小作人も大きい組合を作り御互同志が協力するならば其大なる組合の威力により如何に頑迷なる地主にも必ず打勝ち必ず我等を幸福に導くのだ。

近頃此の農村問題卽ち小作問題に就て種々論議せられ人氣取りの政黨屋は地租の廢減又は移讓農業金融の改善低利資金の融通耕地整理の促進、產業組合及び消費組合の獎勵肥料共同購入種子農具の貸付、副業の獎勵、自作農の創定等を稱へて居る此等は果して實際的に農村振興策とに腐心なし居るや農村振興策とは何を目的とし、何を理想として居るのか自作農になるとて現在の樣な高い評價では如何に安い低利資金を借りても駄目であろ。

又自作農になる希望者が增加すればする程土地の評價は高くなる、併していよ／＼自作農創定難になる。

殊に今日の小作人は九分九厘迄も生活難で土地を買ふ餘裕はない。生活に餘裕があれば小作農でも構はない。生活の安定だに得れば敢て自作農となる必要はないのだ。

農村振興策は實際に勞働し土に親しむ小作人及び自作農の樣な人々の生活の安定を、第一の要件としなくてはならない。不生產者たる地主階級の保護を主としたる農村振興策は寧ろ害ありて益なきもので決して其の農村振興策にあらざることは今更喋々として多辯を要しない。

自覺せよ、團結せよ農村の無產兄弟よ。一部の特權階級や資本家、地主等の詭辯に迷はさるゝなよ。

彼等有產階級者と我等無產階級者とは立場が異なつてゐる。卽ち地主階級が多く小作米を取ると云ふ事は、我等無產の小作人から多く搾ると云ふ事になると云ふ事をはつきりと考へなくてはならないのだ。

我等の運命は、我等と境遇を同じくし階級を同じくしたる我等が兄弟と共に共に手を携へて開拓せなくてはならない。一部落の小作農民は一村に一村は一郡一縣一國にと大同團結したる時に我等の活路は見出され我等の危厄は救はれ嵐の後の如く花咲き鳥歌ふ眞の樂園は來るのだ

湯原彥三氏著
土地と農民の權利（十五錢）
農民新聞社發行

て騒く。僕等は暗然として聲を呑む。自慢の竹槍は、いつの間にやら、姿を消す。あゝ、竹下は遂にあやまつて殺されたる也の顔が無闇に目の前にちらつき、心沈む。やがて勇氣の肚の底より湧き上るを感ず、無茶にアバレてみたくなる。自警團、四方より、進め社を目かけて押しよせ來たる。初秋の月は物凄く冴わたり、竹ボラの音ボウ／＼と聞こゆ。銃聲遠くして鯨波の聲、時々起る。竹ボラは威嚇の警戒なりとか。自警團は手に竹槍、拔刀、棍棒を携ねたりマサカリを持ちたるもあり。氷の如き日本刀の月光に、折々ギラリと光るは流石に不氣味也。自警團の青年、大抵は僕等をよく了解して吳れたり。中には、社の中を家さがしする等とガンドウ提灯を振翳す低能もゐたりこの夜初めて、人の殺さるゝを目擊す。殺したる青年等は一齊に『日本勝つた！』と叫ぶ。氣が狂ひそうになる。竹下は遂に歸らず。僕等は一睡もせずして夜明けたり。（岡生）

これは、僕が二日から、品川署に檢束されてゐた夜、ノートの端に書きなぐつた日記の一部分。但し竹下君は死んだと思つたら重傷ではあつたが無事。

旱魃に當面して

岡本一郎

武士階級が倒壊して、金持階級が天下を取つた、あの明治の大革命を遡る十數年安政の大地震があつた事は歴史に物語る處である。それから間もなく大饑饉が勃發した。あの一世を震駭せしめた劍侠國定忠次が飛び出した事も歴史を紐けば明かである。かくして人心は大いに恐怖し、荒み、徳川幕府の權力がその支配力を失ひ、根幹から動搖し立場が危ふくなつて來た武士階級の急進分子と、金持即ち町人の手によつて明治の△△△が育まれ數多の鬪士を犠牲にして、明治の新政府がこゝに打ち建てられたわけである。明治の御代も四十餘年に盡き、大正も早十年餘を經過した。この間吾々無産階級はどうであつたであらうか？△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△ある。

吾々無産階級解放運動戰線には、夥多の戰士が野にその屍を曝した。今尚とざされた謎として取扱はれてゐる、△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△。又昨年の關東を襲つた自然の暴威、あの人類の如何ともすべからざる大地震は、瞬時にして文化の帝都を灰燼の巷と化した事を思ふと今更慄然として肌に粟をおぼゆるであらう。又その地震を背景に戰慄すべき社△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△未だ世人の頭を去らないだらう。自然が投げし稀有の大地震、稀有の旱魃これは何を意味するだらうか。震災によつて失つた財貨百億、それに續く輸入超過、生産過剰による生産品の山積、生産制限による失業者の増加、米國の移民禁止による植民地の閉鎖、旱魃による農村の大恐怖これ等通じて全日本島の經濟的大恐慌といふべきである。

農村の大恐慌はこれ未曾有の出來事である。ブルジョア新聞の報道する處によれば、收穫物は昨年に比し本年は僅か一割減だと揚言してゐる。がしかしこれは事實として受取れるものであらうか？平等に襲つて自然の大旱魃は常識で判斷しても分る事である。ブルジョア新聞は彌縫的に人心を欺瞞してゐるに過ぎない。人心が恐怖を抱くと自己の階級的立場がその存在を危くするからだ。この彌縫的欺瞞策もあわれ今年の收穫期には無慘にも地底を曝け出して狼狽することは必然な事實である。人間は一日として食を怠る事は出來ない。どうしても喰ふ事が第一の問題であらねばならぬ。しかし喰ふべき糧がない程、人心が恐怖するものは斷じて外にはないのである。この大旱魃による大饑饉が起ることは疑ひのない事實だらう。昨年の地震よりもより以上の大悲慘事が捲き起るかも知れない。

旱天が續いて今年の收穫期にその收穫物が例年よりも遙に減收ならば勢ひ大饑饉が惹起することは當然の當然であることは前にも述べた事である。物價は騰貴し、失業は益々增加し、農村は彌々窮乏することは必然である。支配階級は不斷の勞働者搾取によつて得た所の剩餘價値即ち利潤によつて如何なる物價騰貴にも自ら支持する可能性を持つてゐるのだ。然し、被支配階級（無産階級）は一物の蓄へがない。たゞ〳〵資本家に賣る勞働力しか外に持合せがない。意外の物價騰貴には迚もやり切れない。それに失業の大斧鉞は何時下るから知れないのである。都會の勞働者に比べると、農村小作人はより慘めなものであらう。何故なれば農村小作人はその收穫物によつて、一年中の經濟のヤリクリをつけるのであつて、いゝ收穫物がより少く採れるか、より澤山採れるかによつて大なる經濟上に相違が生ずるのである。都會勞働者は物價が騰貴すれば雇主に賃銀値上げを要求することも出來る。小作人よりも少々は樂だかも知れぬが、厚顔無恥非人道極まる資本家は、賃銀が値上げすれば、物價の値上げによつて利潤を平衡にすることに努力するのである。結局は同じ事を操合するばかりである。賃銀勞働者はそれでよいとしても小作人は小作料が少々は減じても地主からは執拗にも小作料を要求せられる。農村は益々疲弊して自己の立場に恐怖を抱くやうになつて來るのである。

無産階級はこの大饑饉（僕の想像）に當面して如何なる方法を講じ、如何なる態度、如何なる行動を採つたがよからうか？吾々無産階級は瞑してよいか？吾々無産階級は支配階級より不斷の壓迫と、搾取を受けてゐるのである。現資本主義社會制度を否定せないものは無産階級中一人としてないであらう。現社會制度の大なる缺陷が存在してゐる事は、何人も肯定してゐるのだ。現△△△う。

吾々無産階級は、幾久しき怨恨を雪がん爲め固く團結せねばならぬ。大同團結して○○○○○○○○○○○○○○つて、臥薪嘗膽の復讐をすべきである。これは社會進化の大原則だ。それには饑饉による社會の○○○○○正義と眞理とによつて新社會建設に蹶起するもよい[illegible]機であらう。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

社會主義に對する

誤解批難退治

石川準十郎

一

この世の中に社會主義程誤解乃至曲解されて居るものは又と無い。甚しきに至つては泥棒か放火犯の兄弟分位にしか考へられて居ない。社會主義發達の初期時代に於てはどこの國に於てもそうであつたのだが、日本は今その初期にあることは、震災時に於ける竹槍が證明する。凡そ何が馬鹿げたと云つてもこれ程馬鹿げた話はないが、それが事實なのだから仕方がない。

由來マルクス社會主義者卽ち科學的社會主義者を以て自ら任ずる者は一般に、社會主義の未來社會に就て云々することを以て非科學的に陥るものとして、稍々もすればこれを蔑視し忌避して來た傾向にあつた。けれ共その間違つて居ることは既にツガン・バラノウスキー等がよく指摘して居る所である。私は今それを此處に亞述することを爲ないが、要するに私もバラノウスキーに賛成する。

要するに私の考へでは、社會主義者はその未來社會に就て云々することは毫も差支がないものである。我々は世間の當らざるも甚だしき、滑稽極まる批難中傷を甘受すべき少しの理由もない。須からく斯くの如き迷論濁說は見つかり次第一束にして論殺退治すべきである。社會主義が斯くの如き俗說のために誤られることこそ甚だしいものがある。以下私は二三の種本に依り乍ら社會主義に對するこの種の迷論濁說の一列陣上に筆殺して行く

二

第一に社會主義はこの世の全財產を萬人に平等に分配するものだと云ふ誤解である。この誤解からして、今日平等に分配しても明日又不平等となろうとか、皆に分配したならば一人の割前は知れたもんだらうとか云ふ樣な愚にも付かぬ種々の批難が生れて來る。途方もない考へ違ひだ。社會主義は財產の分配を行ふものでなくて、實に生產用財產卽ち生產機關の集中卽ち統一を行ふものである。換言すれば生產機關の所有權を一まとめにして共有に移し、之を共同經營にするのである。社會主義は斯くすることに依つて生產の偉大なる增加を計らうとするのだ。社會主義者の主眼とする所は、旣に存在する富ではなくて、將來齎し得べき富なのである。

三

第二には、社會主義を以て我儘な理屈屋の空想か、然らずんば殺人強盜の類ひとする者がある。途方もない話だ。

最初の社會主義者の一人である英國のロバート・オーエンと云ふ人は「紡績王」とまで云はれた實業界の成功者であつた。又獨逸社會主義の三大先覺者たるマルクス、エンゲルス、ラッサールの中マルクス及びエンゲルスは非常な學者であり、ラッサールはビスマークをして議會に「天才だ」と嘆稱せしめた程の人物であつた。其他枚擧すると限りがない。日本に於ても最初の主唱者たりし安部磯雄、片山潜氏等皆人格者であり學者である。一體今日既にロシヤに於ては社會主義を實行しつゝあり英國に於ては社會主義を標傍する勞働黨が內閣を組織して居ることを考へたならば、社會主義が果して我儘な理屈屋の空想であるかどうか直に分りさうなものだ。

それを又社會主義を以て尙強盜殺人放火犯の類に考ふるに至つては言語同斷である。之に就てイーリーは面白い例をあげて說明して居る。卽ち米國のある監獄に於て囚人に就てその思想を試みに調査して見たら殆んど全部が保守思想家、保守信仰家であつて、社會主義的思想家は皆無だつたと云ふのである。イーリーは尙一般に世界統計に依ると犯罪者は皆非常な保守思想家であることを說明して居る。何んと皮肉な事實ではないか。

四

第三には、社會主義を以て家庭を破壞するものであるとの批難がある。當らざるも甚だしい。家庭を破壞するものは社會主義ではなくて資本主義である。資本主義は今日社會の大多數者をして「生んがためにはその勞働力を賣らざるを得ない所の賃銀勞働者」たらしめた。資本主義は尙之に飽き足らずその子女をもして女工たらしめ幼年工たらしめた。職のためには子は親の膝下を去り、父親は妻子と別れて生活する。それ所じやない、無產階級の子弟は稍々もすれば正當な結婚生活が出來ない。賣淫階級の存在は資本主義の必然的產物である。

マルクスはその共產黨宣言に於てこの「社會主義は家庭を破壞する」と云ふ批難に對して、極めて皮肉な逆論法を以て痛快に駁擊して居る。曰く「我々が家庭を廢止するんだつて？それなら我々が廢止するに及ばぬ。今日資本主義は到る所家庭を破壞しつゝあるじやないか」と。尙曰く「今日ブルジョア階級は無產階級の女子をして賣淫階級たらしむることに依つて、且又互に彼等自身の妻を相姦し合ふことに依つて、婦人の共有を行つて居るぢやないか」と。そして最後に曰く「社會主義は現在の生產制度を廢止するのだから、社會主義の世の中になれば、此

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

現在の生產制度から必然的に生れて來た所の婦人共有の卽ち公私の賣淫制度の無くなることも自明の理である」と。

獨逸の社會主義の首領ベーベルが有名な『婦人と社會主義』を書いたのも、この種の批難に對して書いたものであつたが、要するに社會主義の世の中になれば、婦人は今日の樣に經濟的奴隷狀態に沈淪する必要は少しも無くなる。

それ又若しその「家庭を破壞する」意味が結婚制度の改變を意味するならば、別段社會主義と關係のある問題ではない。社會主義は主として經濟上卽ち衣食住の問題である。今日の一夫一婦制度が宜いか惡いかに就ては一般人の間に意見の相違ある如く社會主義者の間にも意見の相違ある所である。私の考へでは社會主義は「經濟關係の變化は其他の社會關係にも變化を及ぼす」と云ふ唯物史觀の作用する範圍で、この問題に關係すべきであつて、それ以上進んで關係すべきではない。社會主義は『食物卽ちフード』の問題であり『結婚』は主として性卽ち『セツクス』の問題である。

五

第四には、社會主義は國家を無くするものであるとの批難である。日本に於てはこの種の反感が殊に根強い樣である。これは重大な問題である。

社會主義の世の中には國家がある。一般人の考へて居る意味の國家はある。何故ならば一般人は國家と云ふ觀念の下に一般の國家學上の三要素卽ち人民、領土、權力（强制力）を觀念して居るからである。そしてその時の權力なるものは社會學的な統制の職能を持つたものであつて、その「統制」の中にはマルクス社會主義の所謂「搾取、被搾取、支配、被支配」が內容されて居ないからである。この意味に於ての國家ならば、社會主義の世の中には立派に國家がある。何故ならば社會主義の世の中になつた所で土地や人民はどこにもケシ飛ぶものじや無し（尤も天變地異があつたら別問題）又一般的統制作用に任ずる權力なら社會主義の世の中にも明かに存在するのだから問題はない。實に社會主義はこの國家の手に經濟組織の所有權乃至運用權を集中しやうと云ふのである。社會主義が「無くする」乃至「無くなる」と云ふ國家は、搾取、被搾取、支配、被支配の國家である。マルキシズムに依ると國家とは一階級が他階級を支配し、搾取する關係を云ふのである。その政治權力なるものは一階級が他階級を壓迫する力に過ぎない。この意味に於ての國家が「廢止され」或は「自身不用に歸する」と云ふのである。だからして初めから虛心坦懷に考ふる時は文句のあり得やう答がないのである。早い話は社會主義は階級國家を廢止して社會國家を作らうと云ふのである。泥棒國家を廢止して善人國家を作らうと云ふのだ。そしてそれをマルクス主義では國家と呼ばない迄である。

それを感違ひして社會主義の世の中になると滅茶苦茶な無政府狀態が現出し、暴力の强い者が勝手氣儘に振舞ふものだとでも考へたら途方もない間違ひだ。今の世の中こそ經濟的無政府主義の世の中だ。社會主義は要するにそれを有政府的にやらうとするものであることは、エンゲルスがその著「空想的・科學的社會主義」の中に繰返し〱述べて居る所である。

六

第五には社會主義は怠け者に都合の宜い世の中を作らうとするものであるとの批難がある。凡そこの世の中には當らざること多しと雖もこれ程當らないものは又と無い。

考へて見よ。今日の紳士閥階級程の怠け者が又とあるか。彼等は何等生產することなくして不勞所得と云ふものに活して居る階級ではないか。そして社會主義はこの紳士閥階級を無くして、人皆が働く（その代り貧乏のない）世の中を作らうと云ふものじやないか。どこが怠け者に都合の宜い世の中なのだ！

又若しそれ社會主義の世の中になつたら怠け者が出て仕樣が無いだらうと云ふなら、そしてその結果產業の澁滯を來すだらうと云ふなら、資本主義の世の中は既に四つ足の犬の世界になつて居る頃じやないか。社會主義の世の中に於ける怠け者はいくらでも取締る方法がある。斯の如き些細なことで社會主義の前途を危ぶませることには毫もならない。

七

最後第六には、過去に於ける共產村落は皆失敗して居るじやないかと云ふ議論がある。その例として過去に於けるアメリカ合衆國に於ける失敗や、パラグエイに於ける失敗等がよく擧げられる。

如何にも過去に於ける共產部落の試みは、或るものは成功したが大部分は失敗して居る。がそれが皆失敗して居た所で近世社會主義の價値を疑はせることにはならない。何故ならば之等の共產主義部落はその當時の小規模生產主義、自給自足主義の封建時代的經濟組織のものであつて、それが資本主義の大規模生產主義、社會的生產主義の發達の結果當然亡びたまでのことであり、近世社會主義はこの資本主義の發達の結果必然的に來るべきものなのだから、過去の共產主義部落の失敗とは關係がないのである。この間の關係は社會主義の經濟學的研究をすれば直ちに分る。

それを日本の社會主義者迄が「青森の尾駮岬の共產部落」がどうだとか「大島の共產部落」がどうだとか、恰もそれが何か近世社會主義の可能の立證にでもなるかの如く取扱つて居るのは愚の骨頂である。そんなものは封建經濟組織の遺物である。社會主義の世の中になればそれとは全然異つた近世的產業の大編成をしなければならぬ（完）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

無產階級の娘

小川未明

看護婦達は、結核患者の室に、幾日もゐることの危險をよく知つてゐました殊に、若い時分の躰は、最も傳染し易かつたからです。彼女等は、來る者も來る者も、十日間とは長くゐずに、交代しました。そして、この危險から放たれた者は、朗々とした、明るい世界へ出て、いまゝで吸つてゐた不潔な空氣を吐き出し、新鮮な空氣を思ふ存分に吸つて身躰の健康を保するのでした。

この世の中には、いろ〳〵他人のために盡す。職業はありますが、命がけでする看護婦の如きは、實に、その一つです。しかし、彼女等は、また、自分の生命の貴さを知らないのではありません。

この都會に住む金持の一人でしたが、その主人は、もう長いこと床に就てゐました。平常から、氣むづかしい男でしたが、醫者から絕對安靜を命ぜられて寢てからは、一層口やかましくなりました。それで、看護婦が牛乳をこぼしたといつては叱り、吸入のかけ方が惡いといつては、怒りましたから、看護婦は一週間とゐずに、交代した者もあります。

稀には、このやかましい主人の氣にいつた美しい看護婦もありました。

「早く、少し快くなつて、海岸へ行きたいものだ」と。主人が、言ひますと

「妾も、お伴さしていただきますわ」と、彼女は、答へました。

「あなたが、いつしよに行つて下されば、それで、私は、滿足だ。どんなに、助かるかしれない」

「そんなことは　ありません」

「いや、さうです」

しかし、この看護婦も、十日とはゐずに、「ちよつと用事ができましたから」と、言つて、新しいのと交代しました。

折角、主人の氣にいつて、怒り聲をきかなくなつたと思つたのが、またその看護婦が去つてから怒鳴り聲をきいたのです。

「お前方が、何か、意地惡いことをしたのだらう。あんなやさしい、氣のつく女はなかつた。親切にしてやらないから、行つてしまつたのだ」と、主人は、家内の者にあたり散らしたのでした。

醫者から、病人を、興奮さしてはならないと、注意されてゐるので、家内の者は、默つてきいてゐましたが、つひに、たまりかねて、

「何んで、親切にしないことがありますか、別に、お金もやれば、食物まで氣をつけたのですが、あまり長くゐると、傳染するから危險だと、女中に言つたさうです。決して、私共のせいで歸つたのではありません」と、言ひました。

流石に、氣むづかしい主人も、しまひには氣にいらないことがあつても我慢をするやうになりました。そして、しみ〴〵と人生のさびしさが感じられたのです。

病氣が進むにつれて、惡臭が强くなりました。たとへ、職のために、生命を捧げたとはいひながら、なんで若い、これから樂しいことの多い女達に、危險と恐怖と不快に對して、無理な我慢ができませう。また、その必要がありませう。彼女等は、三日とは居らずに、去つてしまひました。

家内の者も、あまり看護婦の變るのを好みませんでした。冷酷だとか、吝嗇だとか、平常から、世間の評判のよくないのを知るにつけて　看護婦のたびたび變ることが、また、世間に何と思はれるか知れないと考へたからです。

田舍から、十五六の女中を雇つて、それにさせることにしよう。脈を取つたり、熱をはかる位のことは、ぢきに覺ねてしまふであらうから……と、家内の者は考へたのでした。そして、そのことは、何より經濟的によかつたからです

一人の女中に拂ふ給金は、看護婦の謝禮の幾分の一にも當らなかつたのです。

かうきめると、早速、田舍の知人にあてゝ依賴しました。

無產階級の哀れな子供達が、いかにして、搾取され、いかにして、犧牲になるか？……搾取されるのも、犧牲になるのも、それがすべて、無產階級の子供だつたのです。

第一、夢にまで憧れた都會が見られること、夜學へやつてもらふといふ條件が子供を誘惑しました。第二に、行儀見習ひのされること、給金のいゝことが――田舍の給金と比較して見て――親達の心を動かしました。

こんな風にして、その金持の家へ、遙々、田舍から來た娘は、まだ十六でありました。彼女は其夜になつてから、朝、停車場まで見送つてくれた、年とつた父親の姿を思ひ出して　どんなに悲しく、涙ぐんだでありませう。

その娘は、田舍の土地に育つて、のび〳〵として、快活でした。次の日から彼女は、靑白い病人の枕許に坐らせられたのです。

「檀那樣は、胃病で臥てゐらつしやるんだから、お前さ、言葉が分り、少し家の樣子が分るまで、看病をしてあけておくれ」と、家内の者は、言ひました。

その娘には、それを拒否するだけの勇氣も、また自由もなかつたのです。そして

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

また、病氣に對する智識も……。

大學を出てから、まだ、時の經たない醫學士は、毎日のやうに、ほゞ同じ時刻に、缺かさずやつて來ました。そして、看護表を仔細に見て、診察してからその紙の裏に、獨逸語で、何やら書きいれたり、看護婦に、注意して行くのが常でした。しかるに、一日彼は、田舍出の娘が、看護婦に代つてゐるのを見て驚かされました。

「最も、熟練した看護婦を要する時分になつて、これは何うしたのだ？」それよりは無智な娘の身の上が、彼には、一層氣つかはれて、實に、戰慄せずにはゐられなかつたのです。

「あなたが、看護なさるなら、白い上衣を着て、マスクを鼻から口にあてゝ、脈をこつたり、熱を計つたりしなければなりません。そして、夜も、必ず、次の室にはいつて休むようになさい」こ、歸る時分に、彼は、低い聲で、娘に注意をしました。外に出るこ、年若い醫學士は、頭を振りながら、

「實に怪しからん……犧牲だ！みす〳〵あの娘を殺すやうなものだ」こ、言ひました。

翌日、この醫學士は、金持の家に來るこ、いつもの如く、診察を終つてから看護表に眼を通しながら、

「こんな不正確な、脈や、呼吸の取りやうでは、私は、診察ができません。やはり、熟練した、看護婦に換へてもらひたいものです」こ、家内の者に向つて言ひました。

しかし、醫學士の折角言つたことも効果はありませんでした。なぜなら、家内の者は、其の醫者を斷つて、近所の町醫者にかゝつたからであります。

その町醫者は、四十を越した年頃でした。氣輕な人間で、家内の者に、面白いことを言つて笑はせました。また、時々は、病人の枕許に座つてゐる娘に向つてさへ冗談を言ひかけました。いまゝでの無口な、冗談を一つ言はない醫學士に較べるこ、家内の者も、また、田舍から出て來た娘も、何となく、こんどの醫者を、晴やかで、愉快の人に感じられて、しまひには寂しい家庭へ、この醫者の來る時刻が待たれたのであります。

醫者は、決して、この家内の者が嫌ふやうなことは、注意してゐて言ひませんでした。だから看護をしてゐる娘に對しても、何等の氣持を惡くするやうなことは話しませんでした。たゞ、相手を笑はせて、自分が、氣にいられ、ばよかつたのです。そして、もう一人病氣にかゝることは、結局彼の懷を肥やすことになつたからです。

年若い醫學士は、その後、この家の傍を通り過ぎた時に、ふこ思ひ出して、

「あの健康さうな娘も、三月ゐたら、青白い顔になつただらう……」こ、獨り言をしながら、今更、此家ばかりでない、狡猾なるブルジョアによつて、犧牲にされつゝある、不幸な少女に同情して、憤りに燃えたつのでした。

——一四、七作——

高野山虐殺

岡　陽　之　助

甚だ大ざつぱな言ひ方ではありますが、德川時代には、三百餘の大名が地主だつたのです。そして百姓は其の土地のほんの附屬物こいふに過ぎなく、早い話が鍬か鎌同樣、米を作る器具の一つにしか考へられなかつたものです。

その德川幕府全盛時代こ言はれた享保の頃にも、武家の手を離れて直接に寺の領地こなつてゐた村々が、全國各地にずいぶんありました。尤も寺こいふものは今日でも同じこさ、遊んで食つてゐる商賣だから、領地こいふものを有つて居らぬここには忽ちアゴが乾上つて仕舞ふ譯です。

紀伊の國、伊都郡島野村こいふ所も、矢張りその一つで、これは有名な高野山の寺領でありました。

此の島野村は、明治八年に新田、馬㙇、田町の三村を合して以來、今日では總稱して南馬㙇村こ呼ばれて居るようです。

さて、紀伊の國は昔から美しい國であります。コバルトの海、綠の丘、黄色な蜜柑、光る風、赤い小蟹……繪こ唄こに應はしい國であります。けれども、こんなに美しい繪の國であつても、その國の社會制度に大きな缺陷がある以上そこから必然に生れて來る不埒、非道の出來事は、之を到底免がれるものではありません。こゝで『社會制度の缺陷』こいふのは、勞働者の膏血を絞つて遊んでゐる者こ、その遊んでゐる者をたゞ食はせるために眞黑になつて働いてゐる勞働者こが一つの社會に並び存するこいふ間違つた事實を意味するのでありま
す。かゝる利益相反する二つの階級が一つの社會に存するこいふ事を指して言ふのです。

世の中の、全ての惡事こいふものは、みなこの缺陷を母こして生れて來るものなのです。だから、この缺陷を根絶しにせぬうちは、如何な有難そうな坊主

の說教も、僞うな政治家達の改良案も、それは結局水の上に書く文字も同樣大した役に立つものぢやありません。

閑話休題。此美しく平和な紀伊の國の島野村を寺領として居る高野山の坊主共もやつぱり、勞働者を牛馬の如く働かせて食つてゐる者共でありました。たとへ職業か、忍辱、慈悲を說き佛の數へを守る僧侶だからといつてみた所で、絞り取る側と絞り取られる側のものとは、所詮敵味方です。してみれば成る可く多く絞らうと企むのが言はゞ取る方の側から言へば「人情」です。されば高野山の僧侶ばかりが此の「人情」を有たぬといふ筈はありません。それどころか末世の惡業を積み橫暴惡政至らざるなしといふのが此の高野の坊主どもが日頃の振舞であります。

高野山と言つても各派に別れてゐたものです。が、要するに二萬一千石これに修理料三千石といふものが年々農民の手から高野山の頭寺興山寺へ取り上げられるおきてだつたのです。

當時德川政府の制度では、租稅貢米を納めるには「京判」と稱する桝を用ふるのが天下の定則としてありました所が高野山の寺務所興山寺では此の定則を破つて「京判」を用ひずに、ひそかに「讃岐判」を用ひてゐたものです。「讃岐判」は「京判」の桝に比較すると一升に付き二勺づゝ分量が多い。だから二萬一千石の高では四百二十九石だけ餘計に納める勘定になる譯であります。

今日の資本家は政府に對して、脫稅をやる時ですが、これは、勞働者から餘計取り立てるのだから一層罪が深い。

それでなくてさへ島野村の農民に取つては　貢米二萬一千石は非常な重稅なのに、その上　この不正の重荷まで脊負はされては、とてもたまつたものぢやありません。

そこで、百姓達は彼方此方に秘密集會をやつては、高野の非道を怨み合ふのでした。これは怨む事が人間當然の道で、怨まないのは卑屈といふものです。

島野村の百姓達は、自分の生活が苦しくなるにつれ、よるとさわると坊主の蔭口を言ひました。中には坊主のいかゞわしい品行を問題にして、あるまじき行爲だと言つて憤慨するものもありました。けれども泣く子と地頭には勝たれぬといふ昔からの惡い道德を子供の時から頭の中へ叩き込まれてゐる農民達のことです。かうして、蔭では隨分、憤慨の口も利き、中には憤慨の餘り「やつつけて仕舞へ」などゝ言つたものも無い限りではないのですが、それかといつて、これらの百姓一同結束を固め、堂々と戰鬪を開始して、一方に惡僧等に一泡吹かせ、他方には自分達の苦境を改善しようといふ段になると誰からとなく意氣地なくも尻込みをし出して、からつきり物になりません。

此の時、この卑屈な村人の中に唯一人眞に勇敢な男がありました。眞の人間が居つたのです。それは名を新右衛門と呼ふ青年でありました。彼は青年に共通する純情の胸と銳利な頭とを有つてゐました。正直な村人が働いても働いても窮乏から脫けられないのみならず、年毎に苦境の深みへ沈んで行くに反して遊んでゐる坊主の方の生活は益々贅澤になつて行く、此の奇怪至極の事實を放つて置くことは眞理と正しい事とを熱愛する新右衛門にとつては斷じて出來ぬことです。此んな馬鹿々々しい事が許せる位なら地上に於ける人間の價値などは全くゼロだとまで彼は思ひつめたのです。村人は此の考へを心の中では贊成しました。しかし、それを彼と一緒に直に實行に移そうとする者は一人も現はれて來ません。心の中で考へてゐることは易いが、實行することは恐ろしいからであります。そこで新右衛門は、自分ひとりで高野山へ登つて、興山寺の役僧に會ひ膝詰談判と出かけました。けれども坊主共は、彼の熱心な正しい要求に耳を傾けようともしません。「何を土百姓めが……」といふのが坊主共の肚なのです。かくて彼の折角の要求も嘲笑の下に脚下されて了ひます。

新右衛門は、非憤を押さへて山を下りますその夕、彼は默然と何やら深い考へに耽つてゐるようでしたが、たちまちその冥想の中に非常な決意を摑みます高野山を相手取つてゐたのでは何年たつても埒が明かぬ事を彼は早くも悟つたのです。そして直接に江戸政府に訴へ出て、政府の手で高野山の納稅制度の改正を斷行して貰ふより他に途がないとの決意を彼れは抱いたのです。併しこういふ運動は何時でも只一人の願ひとするよりも多數の連名を以てする方が目的は貫徹し易い。村人は遂に此の意見に贊成し、たちまち連判狀が出來上がり、新右衛門を首めとして十六人の代表者が江戸表へ出府の上、公儀を仰ぐといふ所まで評議一決しました。

所が、村にはその時既に早くもスパイが入り込んでゐました。自分の不正が公儀に洩れるのを怖れた惡僧共の放つたスパイであるは勿論です。惡い奴は此樣ことにかけて拔け目が無いものです。それから此のスパイの注進が坊主共を驚かしたことも改めて言ふ必要はありますまい。

早速、嚴重な布告が村の辻々に立てられます。その文意に依ると、若し、新右衛門に加擔する者は處刑。裏切る者は特に寬大な所置を取り遣すとの嚴命です。

此の布告が出ると、村人の顏色はサツと變りました。そして程なく、村人の

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

大多數の名を連ねた嘆願狀が寺務所へ差出されました。それは前非後悔の連判狀です。罷業破りの證文です。卑怯なことをする者といふものは何時の世にも絶えぬものです。

けれど、固より新右衛門は自分一人で志を遂げる決心でありました。今更裏切者が出たからとて彼の勇氣が挫ける筈はありません。してみれば彼も矢張り、志を遂行するに當つては、命を懸ける事を忘れぬ男の一人だつたと見えます。

眞黒な晩です。島野村は、聽ではどうやら雪にもなりそうな冷たい風がヒユー〱と吹きすさびます。

その夜も更けてのこと。新右衛門の家の燈火が幽かにゆれて、裏木戸から、一個の黒い人影が音もなく外へ出るもの丶ようです。よく凝視すると、それは汚れた笠で顔をかくして、破れ莚に身を包んだ青年です。彼は、その悲壯な顔を、家の中から彼を見送りつゝ悄然と立つてゐる若い女の方へ向けたと思ふとその姿はうるしのような闇の中に吸はれて行きます。女は闇を見詰めたまゝ身動き一つせずに立ちすくんでゐます。その横顔に流れる行燈の灯で見ると女は確に泣いてゐます。女は新右衛門の妻なのです。享保四年霜凍る一夜、かうして新右衛門は身を非人乞食にやつしてこつそりと住みなれた島野村を去つて行くのです。

乞食姿の新右衛門は、追手に氣を配りながら東海道を下り下つて、やがて箱根の關所に辿り着きました。箱根は名にしおふ關東一の難關所、迂濶には蟻一疋通すまじとの人の噂です。箱根に着いたには着いたが彼はハタと當惑して了ひました。背中には後日の證據になるべき讃岐桝と嘆願書とは脊負つてゐるが關所の雛形を有つて居らう筈がないからです。杖に縋つて關所を見上げます。見上げると突棒、槍、刺股、弓矢、火繩筒などの武器が掛けならべられて、番人がいかめしく控えてゐる有樣が、遠目にもはつきりと見えます。これには、流石の彼もすつかり氣を落して仕舞ひました。が、やがて、彼は、背中の桝を菅笠でかくして、折りから過ぎる雲助に混つて目をつぶて通りました。非人姿であつたために役人のお目こぼしで、彼は見とがめられもせず、通り過ぎることが出來ました。そのとき新右衛門は餘り安心したために、あやふくそこへ倒れそうになります。が、一日も早く江戸へ着かねばならぬ大役を思ひ起しては彼は疲れた足を勵まして只管に道を急ぐのです。

かうして、遂ひに彼は江戸の地へ入りました。華美な大江戸の姿は、何を見ても彼にとつては、盡く目を奪ふものだらけです。全く一時は呆然として、江戸の眞中で不覺の醉ひ心持です。しかし、使命の自覺は冷水の如く、彼の心を襲ひ彼は再び破れ莚をゆすり上げて、寺社奉行所指して蹌踉と歩んで行きます。

嘆願書を見た役人は、取調の完了までとて、彼を牢へ入れました。そして厳しい吟味と甘い懷柔とをもつて役人は彼の心を動かそうとします。しかし、彼の決心はさながら巖の如くです。既に死を覺悟してゐる者の前には、判官の誘惑や威嚇などといふものは何のたしにだつてなるものぢやありません。かうして、新右衛門は、土の牢屋で三年といふ永い年月を送るのです。

享保七年の春、彼は白洲へ呼び出されました。判決の日です。「高野山僧侶の不正桝使用の件、罪狀明白也。公儀の法度に依り厳重に處分すべし」この判決を耳にした時、新右衛門は雀躍りして喜びました。けれど、彼の身體は、おいそれと歸國が許されません。すぐ様、江戸の土牢から、高野山の僧侶の手へと渡されるのであります。つまり、坊主共は、罪は償ふがその代りに新右衛門の身體を勝手に處分する權利を、公儀から許された譯です。しかし、彼は微笑して此の卑劣な處置に服しました。兎も角も目的が達すれば彼は生命の如きは初めから投げ出してゐたのです。一人の犧牲は萬人の同志を生かすといふ事を彼は固く信じてゐたのです。

新右衛門は直ちに高野山へ護送されました。三年振りの歸郷です。しかし、故郷へ歸るには歸つたが、故郷の牢屋へ歸つたのです。

高野の奥、玉川の河上、蛇柳といふ磧があります。新右衛門が護送されると間もなくそこに、二間四方、深さ八尺の大坑が掘られました。そして、三年越しの入牢に痩切つた新右衛門が、寺の牢から、この坑の中へ投げ込まれました。それでも彼の白蠟のやうな顔には冷たい笑ひが浮んでゐます。何百と集まつた坊主共は衣の袖をまくりあげて、坑の中へ石を投げ込みます。小石は雨の如く降つて來ます。坊主共は猿のやうに嬉々と笑ひながら、石を投げる手を止めやうともしません。暗い坑の中の新右衛門は靜かな瞑目です。それに取りやうに依つては、愚かな坊主共を嘲笑してゐるやうにも見えました。かうして新右衛門は微笑しつゝ石に埋まつて死んで行くのです。

凡そ間違つた社會では、正しい事を敢てする者は皆これです。正しいものが正しく價値づけられるやうな新社會が建てられるまでは恐らくこの種の虐殺は地上に絶えぬことでありませう。（八、一二）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

編輯室から

大阪だより

◆思ひ出せば後ろに去年の日本始まつての歴史的事變も今更らに夢の樣な氣がする。去りとて當時の新聞を覗くと亦た深い感慨を覺へざるを得ない。

◆社會的、政治的、思想的、個人的の問題を新らしく捲起した彼の地震、火災、混亂は我等に何を教へたか？私は其の中に思想的、政治的方面を見る。

思想的には可成りの右傾を見せた。ロシアよりイギリスへ……………？……………日和見？。

◆皮肉な現象を呈してゐるのが現在の社會運動だ。地震のお蔭で大分變化を見せた。一息コンムユニストで流行つたのが近頃はコンの音も聞かない。本流も枝流も末流も無くなつて了つたぢやないか。其處いらの所謂コンミニストの本尊は何うしたのだ？。ネッカラロシアの話も出んぢやないか。

◆原則と戰術との區別は絶對的のものである。「方向轉換」は原則の「方向轉換」に非らずして歴らかに戰術の「方向轉換」でなければならぬ。惜しむらくは此の二者の過またざらんこと是である。

◆社會進化の法則は徐々其の則度を發揮する。資本主義の行詰り、は愈々行詰つて來た。「行詰り」は四五年以前からの言葉だ。然るに今だ崩壞しない。崩壞しないばかりか、逆に馬鹿力を以て、自暴嚢にぶつかゝつて來る。資本主義最後の帝國主義は、國粹主義と云ふ紅附け、其の上に國民主義の白粉を塗りつけた。塗られた「國民」こそ、いゝ面の皮で柄にない顏に白粉を塗つたものだから剝げかゝつてしようがない。終いには焦らだつて、ヒステリーを起した。ファスシスチ即ち是れ也だ。狂暴主義（ファスシスチ）は愈々、其の本領を見せた。歐洲のファスシスチは本家が少し昇汞を得かけた。然し乍、狂暴主義も遠からず其の最後の幕を閉づるであらう。

◆日本の社會運動も今や沈滯期に入つてゐる。社會主義者の所謂お歴々は「方向轉換」で躁やいでるが我々無産青年はそれ所ではない。都會に農村に潜入し、敵陣目掛けて突進せなければならぬ。

◆今月號は彼の歴史的大事變を記念する爲、滿一週年記念號とでも附けたいのだ。が名稱位は什うでもよい、我々の雜誌は運動本位だから外飾はソウ氣取らなくてもいゝのだ。内容が整つてゐればそれ以上贅澤云ふ必要はないので表紙は通常其の儘だ。讀者諸君も御諒知ありたい。（佐藤光敏）

東京進め社より

●そろ／＼收穫の秋が來た。が農村は疲弊して行く許りだ。今年などは全くどうする積りだらう。時たま故郷へ歸ると、東北の寒村の貧乏育ちだけに、見るもの聞くもの暗愁の種ならざるはない。この貧乏、この不景氣は現在の資本主義の下に於ては到底救はれない貧乏、到底救はれない不景氣だ。

●東京進め社で毎月研究會を開く筈の所、未だ一回もやらぬ。主謀者の、否主唱者の、岡君があつちに行きこつちに行きして暇なき爲だ。が今月からはきつとやる。眞摯なる同志諸君の參加を心から希望する。敵を擊つにはその正体をはつきり見て掛ること肝要だ。暗の中に鐵砲擊つて獨りで威張つても仕樣がない。協力の力でその正体をはつきり見るのが研究會だ。

●進め社は勿論終始一貫マルクス社會主義で行くであらう。が根本思想は同じくマルクスでもロシアのボルシエビキ風の行き方もありドイツの社會民主黨乃至英國の勞働黨風の行方もあり、可成り異るがフランスのサンヂカリズム流の行き方もある。そして日本には自稱正統マルキシストの中にも非マルキシストがあり、自稱共產黨（ロシア、ボルシエビキ派）の中にも平氣でレーニン等の所謂共產主義復歸の共產主義とは違ふ議論をする人達がある。

●進め社同人の一人としての自分一個の關する限りでは、マルクス社會主義の所謂「科學的社會主義」と稱するその科學的と云ふ所に最終的決定的の據り所を見出して進みたいと思ふ。他の種々なる社會學的作用を無視しては、社會主義は空想的社會主義に陷るのみである。

●春田正君の「社會主義史」今月だけ休稿。所用あり旅行中で代つて讀者にお詫して置く。（石川）

東京市外幡ケ谷一〇七
未來と青年社
月刊 未來と青年
（一部五錢）

鳥取縣米子町郊外大山驛前二本松
農民組合山陰聯合會
月刊 農民新聞
（一部八錢）

東京市小石川區掃除町三十二
月刊 自由論攻
（一部三十錢）菊判八十八頁

東京市外世田ケ谷太子堂二八六
民衆運動社
民衆運動
（一部十錢 一年一圓）

新古
社會主義勞働問題雜誌
絶版でも必ず一週間以内に送る
友愛社
大島眞一
大阪市北區江成町二九二番地

東京府上駒込染井八
振替東京五〇五八五番
鑛山勞働者
全日本鑛夫總聯合機關紙
（一部二十錢）

大阪市北區西野田江成町
勞働者新聞社
半月刊 勞働者新聞
日本勞働總同盟關西同盟會機關紙
（一部五錢）

大阪市北區西野田江成町
日本農民組合本部
月刊 土地と自由
日本農民組合機關紙
（一部十錢）

東京市四谷新宿二ノ三十一
文藝戰線社
月刊 文藝戰線
（一部二十錢）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

平岩巖氏編

高尾平兵衛と其遺稿

既刊

繪葉書及寫眞版數葉

一部十五錢（送料二錢）

近日出版

平岩巖氏編

同志高尾平兵衛

菊判二百頁

神近市子、中村還一、鈴木厚寄稿書稿全部記念寫眞

一部一圓

東京市外幡ケ谷一〇七一

戰線同盟

「民衆運動パンフレット」

吉田一氏著

レーニン會見記

三十二頁 一部十錢（税二錢）

松本一氏著

フエビヤン協會と其綱領

四六版四十六頁 美本 定價十五錢

發行所

東京市外世田ケ谷太子堂二八六

民衆運動社

科目 政治・經濟・宗教・法制・社會學・勞働問題

日本勞働學院生徒募集

九月一日第二學期開講 月謝壹圓五十錢

東京下谷竹町二九（市電西町下車 省電上野驛下車）

社會主義 社會問題 勞働問題 婦人問題

圖書雜誌 パンフレット リーフレット 販賣店

「進め」大賣捌所

本店 神戸市湊川町二丁目十六番地

支店 湊川公園前百貨店廿一號

上西書店

上西一郎

【目錄要二錢】

進め社顧問

赤坂表町一丁目一番地（辨慶橋前）

辯護士 辨理士 法學士

久保山武雄

電話高輪五〇五四番

仁は人の安宅なり

義は人の正路なり

◆同じ電氣料で◆
マツダ瓦斯入電球
◆光力倍加◆

良品廉賣
松坂屋
いとう呉服店
大阪市日本橋三丁目
名古屋市中區榮町

◇大阪長堀橋◇
高島屋呉服店
◇京都五條……東京中橋◇

産前産後血の道
引風冷込等特効有
△全國到處に販賣す
婦人良藥
喜谷實母散
本舗 東京京橋區中橋大鋸町
喜谷市郎衛門

大阪市西區江戸堀
大同生命保険株式會社
電話土佐堀 {二三一・一三三 / 一三二・四五二〇} 番

The Su-an-me. -Socialists Monthly.-
Head office Yebie Nishinoda Osaka

サン瓦斯入電球

電氣が少しで
丈夫で明るい

良いものは
結局お徳

大阪市外大仁七〇
大阪電球株式會社
電話土佐堀長 三一六〇 三一六一 三八二一 三八二二

越
大坂
三越呉服店
高麗橋

受けて重宝
贈るに便利
商品券
御進物には是非此れを!!
金壹圓以上は箱入さしまして至極体裁よく調製致します
東京・大阪
本支店及び大阪梅田、神戸、東京各出張店の共通で御座います
白木屋呉服店